

三商同窓会報



No.58

令和元年7月1日発行

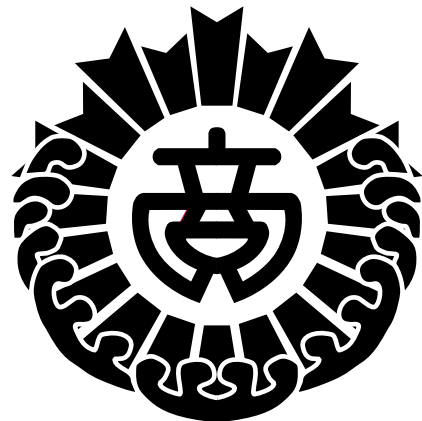
ホームページアドレス

<http://tcsaa.jp/>



平成31年2月9日 三商同窓会新年会

校歌



作詞 前田 夕暮
作曲 山田 耕筈
編曲 脇 則之

都の空は明けたり、今
希望は燃ゆる若きわれら
都立第三商業、ここに拠るや
日本の富を担ふわれら

富岳の雪を望む窓辺
理想は高し、若きわれら
都立第三商業、ここに居るや
都の栄えを築くわれら

東都の海の門にありて
心は濶し、若きわれら
都立第三商業、ここに立つや
江戸の誇りを継げるわれら

応援歌

作詞 多田 友次郎
作曲 池内 政憲
編曲 青山 憲

見よ、三商の旗じろし
T・C・Sの行くところ
旭日洗ふ波がしら
ここに刻む若人の
勝算すでに吾にあり
頑張れ三商、頑張れ三商
(ふれっ・ふれっ・振れー)

聞け、三商の底ぢから
T・C・Sのはた風は
歴史が語るその誉れ
受け継ぎ来たる若人の
命の誇り吾にあり
頑張れ三商、頑張れ三商
(ふれっ・ふれっ・振れー)

見よ、三商の鉄の陣
T・C・Sの旗の下
正義に結ぶ和のこころ
明るく強き若人の
凱歌はすでに吾にあり
頑張れ三商、頑張れ三商
(ふれっ・ふれっ・振れー)



三商同窓会報 第58号 CONTENTS

校歌・応援歌	26期サンパチ会	岡山紘一郎 08	昭和は遠くになりにつけり	21期細田 武 24
目次	25期	神澤和男 09	「佐倉義民伝」**涙、涙	22期荻野弘康 25
—ごあいさつ—	35期	高桑孝一 09	都内を走ったトロリーバス	21期高野 昇 26
同窓会会長	三浦康二 01	本村博信 10	70歳からのボランティア	26期深瀬剛男 28
都立三商学校長	中山博之 01	西邨昭一 11	私の都立三商時代の思い出	16期高野 清 30
—入学式・校歌祭報告—	02	—同窓会活動・会計資料—	—母校の今—	
—同期会・有志の会報告—		30年活動記録	12	三商近況
24期	富川一男 03	30年度会計報告	14	三商教諭 70期木藤則行 36
31期	中山校長先生の挨拶 04	令和元年度事業計画案	15	三商の部活動(2019学校案内より) 37
24期3年2組ミニミニ会	西邨昭一 05	令和元年度収支予算	16	各年度進路先一覧(平成21~30年度) 38
26期	横田豊一 05	—皆さんのエッセイ—		卒業生の推移 39
22期パッション会	古田勝一 06	バレーボールとともに	23期市川忠義 17	東京三商会について 杉本光男 40
24期	斎藤 稔 07	来てみて聴いて	29期土方敏之 23	投稿のお願い 40
	清瀬通男 08	映画狂の君を想う	27期江角喜一 23	編集後記 40
				広告のページ 41~

いあごわい

同窓会活動とボランティア



同窓会会長
第31期 三浦康二

私達同窓会の活動もすべてボランティア精神から始まっている。英語の「ボランティア」という言葉の語源は「自ら意志をもつ」という意味のラテン語である。①自分の意志で行うこと。②世の中の人に役立つこと③それでお金をもうけないこと(無償性)と定義されているようです。

学校教育の場でも人に尽くす心を学ばなかったら何も学んだ事にはならない。最近では「高校時代にボランティア活動をしたかどうか」を大学入試や就職試験の際に尋ねる場合も増えているそうです。学校でも好き勝手なことをする世代ですが、ボランティアを通して自然と「人に尽くす心が身につく、困っている人がいると自然に手を差し伸べるようになる」「何かしてあげる」という傲慢さではなく「させてもらっている」という謙虚さが行動している人にはある。そうでないと、その行動は続かないでしょう。

又ボランティアは「内面の強い人」だからこそできる。ひまな人がするのでもなく、お人好しがするものでもない。ある学校ではボランティア活動を推進した結果、いじめが少なくなった、なくなったという例もあるそうです。

私達の同窓会もこのようなボランティア精神を基にすべからず母校のために、又在校生のために、部活動の発展のために、就職活動のために、そして2万6千名に及ぶわたしたち同窓生のためにこれからも、最善の努力をしまります。

「令和」を迎え、さらなる飛躍を目指して



都立第三商業
学校長 中山博之

「初春の令月にして、気淑(よ)く風和(やわら)ぎ、梅は鏡前(きようぜん)の粉(こ)を披(ひら)き、蘭は珮後(はいご)の香(かう)に薰(かお)る。」

すっかり有名になった万葉集、巻五、梅花の歌序文です。口語訳すると、「おめでたい正月の良い時、天気も良く、風も柔らかく吹いている。その中で梅の花は鏡の前にある白粉のように白く咲き、その香りはまるで匂い袋のようだ。」

新元号となった「令和」、すんなりと全国に浸透しました。「令」には、令月が何事をするにも良い月、めでたい月ということから、「良い、めでたい」の意、「和」は、お互いに相手を大切にし、協力し合う関係の意があります。従って、「令和」には、人々が美しく心を寄せ合い、新しい文化、新しい時代を切り開いていくという思いや願いが込められています。昭和、平成、令和の三つの時代を経験しますが、「昭和は遠くになりけり」の心境です。

さて、日頃より同窓会及び公益財団法人「東京三

商会」の皆様には本校の教育活動にご理解、ご協力、ご支援を賜わりお礼申し上げます。平成27年4月1日付で着任し、5年目を迎えました。同窓会からは、平成27年度に「言語能力向上拠点校」、平成28年度に「東京オリンピック・パラリンピック教育重点校」及び「アクティブ・ラーニング推進校」、平成29年度に「祝 東京都立第三商業高等学校 創立90周年記念」及び「地域連携推進モデル校」、平成30年度は「パワーアップハイスクール(横版)」、今年度(令和元年度)は「パワーアップハイスクール(縦版)」及び「地域連携リーディング校」の懸垂幕を寄贈していただき有難うございます。また、東京三商会の給付型奨学金につきましては、まさに本校生徒を物心両面で支えていただいております。保護者・教職員一同、感謝の念に堪えません。本当にありがとうございます。

「パワーアップハイスクール」の取組みですが、生徒の体力向上や心身の健康の保持増進を目的として、(公財)江東区健康スポーツセンター派遣の栄養士から、運動部活動に参加している生徒、顧問を対象に講演会を行います。スポーツ栄養の基礎(トレーニング期における栄養補給)、日常生活における食事、熱中症の予防対策等について学習します。

「地域連携リーディング校」としての取組みは、幅広い地域住民や企業・団体等の参画により、地域学校協働活動を行い、これらの取組を通じて、生徒の社会的自立に必要な力を育む教育をより一層充実させるとともに、「地域に根差し、地域から信頼され、地域を支え地域に貢献する学校」となって、地域との連携・協働をブランドイメージとする学校づくりを推進します。

東京都教育委員会の商業高校改革により、平成30

年度から「商業科」を「ビジネス科」に学科名を変更しました。1年次に「東京のビジネス」、2年次に東京都学校設定科目「ビジネスアイデア」を学習し、3年次の「課題研究」に繋がります。商業の学習として、簿記や情報処理等の資格取得のみに偏らず、ビジネスを考え、動かし、変えていくことができる力を持った生徒の育成を目指しています。そのため、学校のみでの学習で完結するのではなく、企業や大学等と連携して、実地で学ぶ商業教育を行います。昨年度の1年生は、アパレル業界を代表する(株)オンワード樫山と連携し、「高校生が考える新たなファッション」というテーマで様々なアイデアを考え、発表しました。今年度の1年生は引き続き(株)オンワード樫山との連携授業及び運送業界との連携による物流についての最新の講義、2年生は「ビジネスアイデア」にて(株)近畿日本ツーリストと連携し、2020東京オリンピック・パラリンピックを見据えた「修学旅行」企画を考え、来年度に全国販売を実現します。

最後に、創立90周年記念式典を創立100周年への輝かしい通過点とし、本校教職員一同、さらに気を引き締め、「生徒一人ひとりが光り輝く学校『SUN商』」の実現に向け邁進することを誓い、「令和」最初の寄稿といたします。

平成31年度入学式

同窓会会長 第31期 三浦康一

本年平成31年4月9日に第89期生となる新入生の入学式が挙行されました。6クラス210名の新入生が9年間の義務教育を終えて新たな夢と希望に燃えて、これからの時代に即したビジネス教育を実践

する都立三商生としての素晴らしい出発の日でありました。

これから1年生で東京のビジネスを学び、2年生でビジネスアイデアを学び、3年で課題研究を学び、3年間でビジネス科で学んだ基礎や専門知識、技能を活かして就職、又、ビジネスに関する専門的技術士台として、更に専門性を磨き学びを深めるために、進学の道を進む、未来の明るい3年間として頑張っていたきたいと思います。



第26回「東京校歌祭」



毎年、同窓会をあげて参加している、東京校歌祭が平成30年度11月3日に行われ、60名を超える人数の方が参加されました。

今回も、三商の教諭お二人と現役生5名が参加してくれ、特に毎回ピアノ伴奏引き受けてくださる、音楽教諭の須藤先生のお蔭で、全員の音が合わせやすく、素晴らしい合唱が披露できました。

本年度の第27回は、10月27日(日)に杉並公会堂で開催されます。ご案内を会報と共に送っておりますので、ぜひ今年も多くの方のご参加をお待ちしております。



同期会有志の会開催報告

第二十四期 同期会報告

第24期 富川一男

一 昨年10月19日に「最後になるかもしれない」24期同期会を開催してから二年、平成30年11月14日、第17回になる「祝傘寿・最後の同期会」が前回と同じ、上野・東天紅に於いて開催されました。

前回開催後、次回を開催するか否か、30年6月に各クラス幹事で協議の結果、80歳になることもあり「最後の」同期会を開くこととし、世話役は富川一男が務めることになりました。

今回の出席者は65名と前回よりやや少なくなりました。二年の時の流れを考えれば、仕方ないことでしょう。今回、最後の会ということもあり、母校の現在の学校長・中山博之先生にご出席頂きました。

会場の「上野・東天紅六階「ソールの間」は明るく、眼下に不忍池、目を上げるとスカイツリーが望める室で、今回の設営に当たっても2組Tさんにご尽力頂きました。

11時半開場、母校の校歌・応援歌が流れる中で出席者が三々五々入場、クラス毎に分けられた丸テーブルに着席、懇談が始まります。

正午に開会、世話役の富川から、今回の会を開くに至った経緯を説明、次いで長年にわたって同期会を続けてこられたのは、福原伸之さん、故藤田宏司さんのご尽力の賜物であるとして両氏に対し感謝の言葉がありました。続いて最近出版された内館牧子さんの「すぐ死ぬんだから」の冒頭に、都立商業高

校の「八十歳大台間近の同期会」のシーンが描かれており、今回の我々の会を見ているようだ——との話がありました。

次いで、札幌から上京の2組鈴木富夫さんの発声で乾盃、宴に入りました。

しばらくして、中山先生が登壇され、西郷さんが流された奄美大島出身であると、方言を混じえながら自己紹介をされ、次のようなお話がありました。

一、母校は平成30年1月、創立90周年を迎えた。

二、草創期は「リトルジェントルマンたれ」の方針の基、英語テキストの使用。

「論語」の勉強、大陸への旅行などが行われた。戦中には造船工業科が併設された時もあった。

三、戦後、昭和24年に女子生徒四名が入学。

41年に男女比が逆転し、現在は女子七〇男子三〇の割合である。

四、現在の進路は、進学、就職半々で、就職率は100%である。

五、創立100周年に向け進めていきたい。そして、「先輩方が百寿に向かってご健勝をお祈りする」と結ばれた。

その後も、久しぶりの再会に懇談が続いたが、2時に校歌・応援歌を全員で明るく元気に歌った後富川から「脳を鍛えるには運動が最適」との説を紹介し、お迎えが来るまで心身とも元気で暮らそうと挨拶して、名残惜しい会は閉会となりました。

なお、今回までの余剰金を活用し、前回に無肥料、無農栽培についてスピーチされた六組清水精二さん経営「精華堂」の自然栽培米を原料とする「あられ」をお土産としました。

一応今回17回をもって24期同期会は終了することになりましたが、席上、趣味同好会のような形で続けてはどうかとのご意見がありましたので、有志の方々に何らかのやり方で縁をつなげて頂ければと思います。

以上



第二十四期 同期会報告

中山校長先生のご挨拶

三商の大先輩方、こんにちは。

東京都立第三商業高等学校 校長の 中山博之でございます。

本日は、「祝傘寿 最後の同期会」にお招きいただき、有難うございます。

三商の校長として初めての同期会への参加です。こちらから拝見しますと、皆さん本当にお元気な様子であり、「人生100年時代」を実感させられます。記念すべき同期会へのお招き有難うございます。また、昨年度まで同窓会副会長でありました、尾坂富美子さんには日頃から大変お世話になり、有難うございます。世話役の富川一男さんからは、丁寧なお手紙を2度も頂戴し、誠に有難うございました。三商卒業後、80歳になるまで、隔年で同期会を継続していることに敬意を表します。

初めてお目にかかる方々も多いかと思えますので、自己紹介をさせていただきます。昭和34年11月2日生まれ、59歳、あと1年で定年退職になります。従いまして、先輩方が三商を卒業した当時、私はまだ生まれていませんでした。出身は鹿児島県、奄美大島です。ちょうど今年、日本が近代国家へと始動した明治維新から150年、ということでNHK大河ドラマ「せごどん」を放映しています。西郷隆盛は2度・3度、島流しになりましたが、奄美大島に流され、愛かなと住んでいた家が今でも観光名所になっています。かつて、司馬遼太郎が、「桜島を背に日本を見渡すと、将来このままで良いのか、自分のできることは何か。」をいついつい考える、と本に

記していました。それを見習って、私も学生時代に郷里に帰省する度に桜島を背にして自分の将来、日本の将来を考えたものでした。

さて、先輩方が三商に入学した昭和29年度は、第2代今村直人校長から第3代伊澤信治校長に変わった時期です。私で本校第20代校長となりますが、並行して、全国商業高等学校校長協会・公益財団法人全国商業高等学校協会 第28代理事長も拝命しています。先輩方も検定取得に頑張った全商検定を実施している協会です。全商協会は校長会が昭和23年5月28日設立、財団法人が昭和31年4月1日に設立され、平成23年4月1日から公益法人となりました。本校の財団が公益法人となった同時期です。全商協会の初代理事長は、本校第2代今村直人校長です。その後、3代理事長は本校第4代石田壮吉校長、5代理事長は本校第5代清田栄一校長、12代理事長は本校第8代笠井重徳校長、15代理事長は本校第12代小澤新一校長、そして、28代理事長が本校第20代校長の私となります。

昨年のティアラこうとうで開催した「創立90周年記念式典 及び 祝賀会」

に参加された方々には、改めて御礼申し上げますと思います。本校は、昭和3年1月31日に東京府立第三商業学校として創立し、第1期生は、明治小学校幼稚園跡で授業を開始し、同年8月に数矢小学校に移転、昭和5年4月に校舎第1期工事が完成して現在の地に移転しました。

設立時の草創期は、「リトルジェントルマンを創る」「三商生は小紳士」「制服は背広にネクタイ」「満州・朝鮮・支那方面への商業大視察旅行を実施」「修学旅行はサンフランシスコ」「朝礼は毎日、上級生の指導講和を実施」「授業は7時間、土曜日6時間

授業」「上級生は下級生に英語と漢文を教える指導授業を実施」「修身の教科書に論語を使用」「英語経済はジイドの経済原論の原書を使用」「英語商事要項の名称でグレイビーのビジネスメソッドを習得」「卒業式後は帝国ホテルで祝賀晩餐会」等々、これらのフレーズを聞いただけでも、壮大な理想に基づく教育活動を実践していた設立草創期や興隆期の様子を過去の記念誌から読み取ることができます。

昭和10年代は、折しも戦争へ向かう時期、国策により造船工業に転換を余儀なくされ、一時期は造船工業学校が併設されました。昭和15年より定時制課程を併設、さらに、学制改革により、昭和23年7月に現在の東京都立第三商業高等学校と改称され、戦前の草創期、興隆期、そして戦中期、戦後の混乱期を乗り越え、平成30年1月、めでたく創立90周年を迎えました。今後、創立100周年に向け、歩み始めたところでございます。三商生の男女構成比率ですが、昭和24年4月、初めての女子生徒4名が入学、昭和25年4月、女子生徒30名入学（第20期生）、昭和41年4月、男子201名、女子262名、計463名となり、男女比が逆転し、現在は、女子7割、男子3割の構成となっています。三商は不況知らずであり、現在も約千二百社の求人票を頂いており、就職に関しては100%を維持しています。また、近年は進学希望者も多くなり、卒業生の5割が就職、5割が進学という状況です。三商の卒業生の企業から求人をもらい、毎年1〜2名採用していただいている会社もございます。ここにお集まりの先輩方の会社で採用を考えている方がいらつしやいましたら、是非、進路指導部に連絡をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

日本が近代国家へと始動した明治維新から150年、世

界史的に見ると、産業革命から250年、第一次世界大戦終結から100年、男性の4人に1人、女性の3人に1人が65歳以上の高齢者となった年、平成最後の年に「祝傘寿 最後の同期会」が開催されます事に敬意を表するとともに、この場に参加している先輩方一人一人の、卒寿、百寿へと益々ご健勝を祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。

東京都立第三商業高等学校長 中山博之

第三十一期 同期会報告

第31期 西邨昭一

先の東京オリンピックが開催されました昭和39年に三商を卒業致しました我ら第31期生は、平成30年9月30日(日)に上野池之端の「東天紅」にて、2年ぶりに同期会を開催いたしました。

当日は、大型の台風24号の接近が報ぜられる中、帰りの足を気かけながらの参集となりましたが、ご来賓に高木美和子先生(3組担当)をお迎えし、77名の参加者を得ました。

ちなみに、6年前の9月30日に会場も同じ「東天紅」で開催しました同期会の日も台風に見舞われた。(笑)

会は12時半に同期会事務局の真下章さんの司会進行でスタート。

初めに同期関係物故者の方々に全員で黙祷を捧げた後、猪野忠行さんの「前回の同期会は古希の祝いの会でありましたが、今回は敢えて名付けるならば、同期生の生存を確認する会でしょうか!」とのユーモア溢れる挨拶で開会となりました。引き続きご来賓の高木先生より現在の近況のお話を頂くとともに

に、93歳の先生から「今後も同期会には出席いたしますから。」と嬉しいお言葉がございました。その後、当時生徒会長の高山俊雄さんの挨拶、更に現同窓会長の三浦康二さんからは昨年開催された母校90周年記念事業や三商の現状報告があり、いよいよ、古関欽司さんの乾杯の発声で開宴となりました。従前の同期会では各テーブルに卒業時のクラスご



とに着席していましたが、今回は試みとして、くじ引きによりランダムに着席のことにしました。同期会の出席者はご常連とといった方々がほとんどですが、馴染みのない同期生との同席に、当初は会話が

戸惑いながらも、そこは同期生同士、何時しか各テーブルでは、「何組の〇〇です」「〇〇部にいた△△さんだよ」「〇〇君はいまどうしているのかな」など、学生時代の思い出話や近況を語り合う歓談の輪が広がり、2時間があっという間に過ぎました。

会も終盤にさしかかり、長年に亘り同期会の開催に尽力されている事務局の星野忍さん並びに辻村ソノエさんからの挨拶があり、続いて全員で校歌、応援歌を声高らかに合唱し、最後に鷲巢恒治さんの閉会の挨拶をもって、今回の同期会は終了致しました。本来であれば、その後の二次会もセットされておりましたが、今回は台風が接近中とのことで、残念ながら急遽中止になったため、名残惜しみつつ、次の再開を誓いながらそれぞれ家路につきました。

第41回ミニミニ会開催報告

第24期 横田豊一

終戦時、国民学校1年生だった私達も、その後遅しく成長、昭和・平成を生き抜いてきましたが、本年、いよいよ平成時代の天皇陛下が高齢でご退位、上皇になられ、新たに皇太子殿下が天皇に即位され、皇太子妃雅子様も皇后に、そして年号は平成から令和へと変わり、大切な時代を迎えました。

と同時に昭和生まれの私たちは本年全員が八十歳になる節目の時でもあり、都立三商のミニミニ会は、そんな私たちが、年一回の出会いを楽しみに、上野不忍池を巡って初夏の陽だまりの中、記念すべき5月18日(土)、上野東天紅に17名の方々が各地から集まって下さいました。

この日は大安で、東天紅はにぎやかな雰囲気、結婚式姿の若いカップルと参列者で一杯でした。

そんな中、若い人たちに混じって、5階の見晴らしの良い会場に、元気な初老達が会の定刻前に登場、受付でお会いする皆さん顔色も良く、お元氣のご様子によりでした。

ミニミニ会は定時に始まり、浅賀幹事長のご挨拶・報告の後、昨年からご参加の7組・清水さんから無農薬の製品づくりについてとご商売を通じての生き方。品数の多い食事をし、希望を如何に作っていくか、また感性を磨き他人とお付き合いをする、感受性を持ち、規則的な生活を身につけて行く…など毎日の生活で、身近に為になるお話があり、たいへん参考になりました。

また出席会員が何時ものメンバーの中、今回はミニミニ会に20年ぶりと云う、内海良太さんが見えられ、浅賀さんから特にご紹介がされました。

内海さんと言えば、三商時代は柔道部の部長として活躍、卒業後も日大に柔道の講師として招かれたくらい、柔道が強かった人です。同じく部員だった村さん、横田にとつて憧れの人でした。

卒業後、長い間航空関係の仕事を全うされる傍ら、俳句に興味を持たれ、仕事の関係で全国を回る中、俳句にのめり込み、長い間に句集も「嵐」「万象」「青嶺」を出版されています。

今回はその内海さんが乾杯の音頭を指名され、声高らかに乾杯の後、第一部の懇親会にぎやかに始まりました。そして暫くお食事や飲み物・懇談が続いた後、皆さんからそれぞれの近況を話して頂き、高齢者ならではの健康問題から老後の話など興味しんしんで、率直な話題に会は終始盛り上がりしました。なお、寺元さんからは嶋津さき子さんが昨年6月6日に急逝されたとの報告がありました。心不全によるご逝去は誠に残念です。心から哀悼の意を表しま

す。

また、石井美津代さんは70歳から本格的に絵を描き始めましたが、10年たち、この度東京美術館で開かれた東光展に入選され、東光展の新会友に推挙されました。

皆さんのお話は、とても前向きで八十路を迎えたとはいえない元氣さがありません。これからもご自身の身体を考えながらも、その方に合ったライフワークを待ちながら歩んで行きましょう。

2Fでの二次会は2つのテーブルに別れましたが、それぞれ胸襟を開いてのお話が始まり、モチベーションが上がりましたね・・・今回も皆さんからとても身になるお話を沢山頂きました。

会が終わって皆様と不忍池周辺で共にお別れをしましたが、皆さまが無事に明るい内に家路に着かれたかなと心配しながら、私も無事に家に着き、ほっとした次第です。

さて、今回も皆さんからの要望で、また来年もミニミニ会をやるうとの話になりました、そして来年はオリンピックがあり、予約が大変だろうとの予測から、早く会場を抑えてとの声あり、結果会場は上野東天紅、そして日程は令和2年5月16日(土)に決定、早速立見さんを通じ、予約をさせて頂きました。来年もこの会が皆様にとつて楽しみのお会になる事を願っています。

どうぞ新たな方が加わって、また皆様の更なるご参加をお願い致します↓2020年へ
なお、来年への幹事(お手伝い)は浅賀弘光さん、渡辺和美さん、吉田立子さん、横田の4名が決まりました。後日打ち合わせをし、オリンピックの年にふさわしい会にしたいと思っています。

『令和の曙』
中山博之校長先生の御臨席を賜って!!

第26期 古田勝一

「生涯青春で有り続けたい」との願いから毎年開催して参りました26期同期会も通算30回目を数えるに至りました。加えて「令和元年」に卒業60周年を迎えることとなりました。

奇しくも卒業30周年の時は「平成元年」でしたので不思議な想いも感じます。さて今回の同期会は1組が当番でしたので、代表幹事には、杉本光男さん・岩瀬和子さん・石川武子さん・山部紀子さん・渡部弘子さん・木島篤治さん・海老根正栄さんはじめ1組の方々によつて進めていただきました。

令和元年6月8日(土)「東天紅」上野店卒業生472名(物故者82名・住所不明者95名・住所判明者295名)中、今回出席者67名司会は海老根正栄さん、当番幹事挨拶は杉本光男さん

この記念すべき同期会、『全国商業高等学校長協会(全商)』第28代理事長でも居られる母校三商の中山博之校長先生の御臨席を賜りました。

来賓挨拶要旨

○26期の大先輩方が卒業された1959年に私は誕生しております。○三商は「商業科からビジネス科へ」…体系的にビジネスを学ぶ学校であることを全面に打ち出している。

○実際に模擬株式会社を作り事業展開していく「総合実践」を通じ、相手のことを考えられる人材を育てたい。

○工業は物を作る…商業については、その作ったものを必要とする消費者に届ける…いわゆる、つなげるという、そういう人づくりをするのがビジネスであり、『商業Ⅱ(イコール)人づくり』と考えている。

○つなげるの基本は「気持ち良い挨拶がきちんと交わされるように」と「挨拶の励行」

○人との会話が一番大切で、相手の目を見てオハヨウ…相手の目を見て笑顔で次の会話を作り出す、相手と正常なコミュニケーションができる生徒の育成を念頭に人づくりをしている。

○進路先は進学(大学・短大・各種専門学校)が50%、就職が50%で、「進路実現」100%の学校となっている。

中山校長先生には、三商の現況、商業教育の展望など、貴重なお話をいただきました。



次に、金原亭馬生師匠の落語に移り、高座に付くと、「何がやりにくいと云ったら、三商の先輩方前でするのが一番やりにくい」との「まくら言葉」から始まり、見事な一席…落語の後はサービスで粋な踊りを披露して華を添えてくれました。

講演の後、乾杯は岩瀬和子さん…。会場では東北支援の一助として恒例の深瀬剛男さんによる「三陸名産焼まつも(高級海藻)の販売をし、販売益は「被災地支援義捐金」といたしました。宴たけなわの中、「クラス別記念写真」。撮影は杉本光男さん。

続いて「校歌・応援歌」斉唱…校歌の指揮は三好清孔さん・応援歌は清水博さん。「フレイ!フレイ!三商!フレイ!フレイ!三商!」で息が切れ、ブツブツオレル程の大声で頑張ってもらいました。

この同期会前日の天気予報は傘マークでしたが、当日は曇りから始まり、帰りには晴れ。今回も天が味方をしてくれました。

日本一の商業学校で学んだ私達が60年経って、日本一の立派な中山博之校長先生の素晴らしいお話を伺うことが出来、皆ハッピーな気分での散会となりました。

パッション会の報告

22期3年6組クラス会

平成30年6月16日(土)開催

第22期 齋藤 稔

このクラス会が再スタートしてから、今回が15回目となる節目の会でした。

会場は毎度おなじみの「富水」。富岡八幡宮のすぐ傍ですが、昨年12月には凄惨な宮司殺人事件がありました。

今回の参加者は最少の10名。この1年間で2人が鬼籍に入り。1人は認知症で施設に入り参加できませんでした。

いつもならテーブルが二手に分かれるのですが、今回は一つにまとまりました。

祝傘寿二十四同期会報告

第24期 清瀬通男

平成三十年十一月十四日（水）、上野「東天紅」において『祝傘寿最後の同期会』と銘打って二十四同期会が、出席者六十五名（内女性が二十五名）を得て開催されました。

いつの頃からか我が同期会は三年間隔で開催されてきました。平成二十八年十月十九日に開催の第十六回目では「今回が最後になるかも」と案内して七十四名が参加しました。

しかし傘寿を迎えた平成三十年、クラス代表の幹事会で傘寿を祝う同期会が開催することが決まりました。まとめ役を富川一男さん（九組）が引き受けて下さり前記のとおり開催されました。会は富川さんの司会で進行了しました。冒頭乾杯の音頭をとられた札幌在住の鈴木富夫さん（三組）からその年の九月六日に発生した北海道胆振東部地震に遭遇した生々しい体験談を聞かせていただきました。

当日は中山博之校長先生にご出席いただき三商の歴史・現況・将来などのご講話を拝聴しました。会場は八テーブルに分かれていたが時間の経過とともにテーブル間の交流も盛んとなり、回顧談や現況報告に花を咲かせ瞬く間に予定時間が過ぎていきましました。

最後は恒例の校歌・応援歌を全員で合唱し閉会となりました。尚、今回は清水精二さん（六組）経営の「精華堂」の有機米原料で作られた「あられ・せんべい」がお土産として配られました。

母校三商がこの会の前年の十一月十一日に「創立九十周年式典・祝賀会」を開催したことは記憶に新

しいところでは、私たち二十四期生は、昭和十三年、十四年生まれですので昭和の時代を五十年、平成の時代を三十年生きてきました。あと何年の寿命か判りませんが、令和八年に三商が創立百周年を迎えるのを見届けたいと願っています。

26期3年8組クラス会

「三商 サン。パチ会」

第26期 岡山紘一郎

毎年恒例の忘年会をゲスト三方、クラス九名の合計12名で開催致しました。ゲストは古田勝一同窓会幹事26同期会会長、岩瀬和子同窓会前会長、杉本光男同窓会事務局局長です。クラスからは小川、谷口、中川、勝又、岩崎、兵藤、川島、猪瀬、岡山の各氏です。

会場は東京都指定名勝 清澄庭園（岩崎弥太郎から三代が築いた明治を代表する回遊式林泉庭）内の池の中に建っている涼亭です。食事は人形町今半からの出張料理のすき焼き、お造り、天ぷら、季節の野菜等々です。飲物は庭園の配膳室に注文して当日担当者が世話してくれます。涼亭は貸切りなので誰もいません。40名のところ12名ですので広々としています。

会は1時からで、猪瀬幹事の挨拶から同期会会長の古田会長の乾杯の発声で始まりました。涼亭は池に面したガラス張なので庭園の絶景を目の中に入れたながらの食事でも楽しいものでした。

出席者は皆何らかの会で年2〜3回は会っている仲間なので、話はあちこちに席も事由に移動しながら飲み食いで賑やかでした。



冒頭、故山本先生の奥様からの手紙が披露されました。90歳を越えたお年ながら大変お元気な様子が窺えました。

歳を取ると病気の話を中心にがちなのですが、明るい話題としては、長年S君が心血を注いできたプロジェクトが結実し、中国を始めアジア地域10か国で特許が取得できるメドが立ったという話でした。

もしかしたら、来年のパッション会は「熱海で芸者を挙げて・・・」などという豪華なクラス会になるのでしょうか？ 今回欠席した7人の皆さん！ 連絡のつかないクラスメートの皆さん！ この都立三商同窓会報を見ていただき、来年の参加をお待ちしています。

会の中頃、進行役の谷口幹事が席の端から順々に近況報告、話したい事等3分以内でお話下さいとのお願いで始まりました。3分で終わる人は少なく、色々話し途中でチャチャも入り笑いながらの話が多く、和気あいあいの会となりました。時間はたっぷりあるのでコーヒータイトムで又雑談し、4時少し前にお開きとなり、涼亭の入口で記念写真を撮り、来年の忘年会も又ここで、と約束し楽しく別れました。

清澄庭園の涼亭は庭園事務所で6ヶ月前から予約を受け付けています。会場費は五千五百円です。料理は出張料理で人形町今半 明治座 亀戸升本の三店から選び、飲物は配膳室用意してくれます。

開催日 平成30年11月13日(火)

第25期同期会開催報告

第25期 神澤和男

平成30年10月17日(水曜日) 正午より、墨田区錦糸町の『東武ホテルレバント東京 龍田の間』にて、第15回の同期会を開催しました。今回の幹事は5組が担当し、各組より1名の連絡役幹事をお願いし、又当日には受付等お手伝いを頂き、有難うございました。

出席者59名(内女性10名)に同窓会会長三浦康二様の御出席を頂き、盛大に開催しました。又、今回は同窓会よりNo.56号の会報を提供いただき、出席された方々に受付にてお配りさせていただきました。

会の進行を桑原久夫幹事代表に、開会の辞を梅原明行幹事、近藤茂幹事の挨拶、同窓会会長三浦康二様よりご挨拶と乾杯の音頭を頂き、懇談に移り宴会場

は談笑の輪に。今年25期は三商卒業60年傘寿を前に健康に、人生の限界に挑戦に、家族の介護にと、話は尽きません。今回も宴会場は、丸テーブルで自由に席を移動できますので、クラスの垣根を超えて久しぶりの友との語らい、近況報告と時のたつのを忘れていました。



第15回 都立三商25期生 同期会 平成30年10月17日 東武ホテルレバント東京

恒例により、1組幹事小野田良子氏のリードにより、三商時代を懐かしみ校歌を声高らかに合唱し益々盛り上がりました。

宴もたけなわの中、前回より同期会の開催幹事の持ち回り二巡目が始まり、今回は七組担当となり、幹事代表柴崎晴夫氏より「次回迄健康でまた参加でき

るよう」お誘いの挨拶があり、神澤幹事の閉会の辞にて解散となりました

最後になりますが、卒業60年、同期会開催も15回となり、今回は案内状発送270通余、各クラスごと出席者の皆様に返信はがきを確認していただき、近況報告に代えさせてもらいました。又5組幹事会にて現時点でわかる範囲の名簿を作成し、会計報告と共に次期幹事に引き継ぎをお願いしました。

令和初の同期会 開催報告 三十五期

第35期 高桑孝一

35期生463名は51年前の1968年昭和43年に三商を卒業し、本年古希を迎えます。令和時代の幕開けとなる最初の月に主賓として同窓会会長三浦康二氏にご臨席を賜り、「ニュートーカー」数寄屋橋本店にて第6回同期会が開催されました。

5月26日(日)の当日は二日前から向こう48時間は晴れで気温30度以上の猛暑日の予報が出ていました。前回の6年前とは打って変わって天候の心配は全くありませんでした。予報通りの晴天で参加者の日頃の行いの良さが偲ばれました。

当初参加人数は70〜80名くらいかと案じていましたが、予想に反して121名(男性63名、女性58名)の多数が参集し、その中には卒業以来、初めて参加される方もあり、又遠く宮城県、新潟県、滋賀県、山口県から参加される方もありました。

受付開始時刻十二時三十分のかなり前から参加者が顔を見せ始め、会場内で語り合う姿が多く見られました。

司会は7組・田中丈司君が担当し、35期物故者の方々に黙祷を捧げた後、代表幹事の4組・長谷川誠君の挨拶により十三時に開宴となりました。
引き続き三浦同窓会会長よりご挨拶を頂き、1組・青木誠君の発声で乾杯、懇親会に入りました。



会の終盤が近づく頃、1組から9組の順番でクラス集合写真を撮影しました。懐かしい顔、顔、顔に時の経つのを忘れて話し込む姿がここかしこに見受けられました。十代の頃の甘酸っぱい思い出を胸に

蘇らせて懇談していると時間が流れるように過ぎていくようです。同級生が一堂に会して懇談出来る事は何と幸せな事なんだろうと改めてつくづくと思えました。

一次会の終了時間が近づいて来て、8組・宮下恵介君の閉会挨拶に続き、全員で校歌、応援歌を合唱し、8組・桑真一君により中締めを行いました。最後に4組・小田恵子さん、9組・篠崎功君兩名による全員での記念集合写真撮影となり、目出たくお開きとなりました。

楽しい2時間はあっという間に過ぎ、クラス幹事が準備した周辺のカラオケ店に向かう方、引き続き同じ店で延長して過ごす方などに分かれてそれぞれに二次会が行われました。

尚、次回の開催予定は未定ですが、五年後の後期高齢者になる75歳の時、77歳の喜寿、はたまた80歳の傘寿のお祝いの時でしょうか？

今回の参加者にアンケートで開催頻度についてお聞きしましたので、その集計結果を参考にして次回以降を考えて行きたいと思っています。

35期は卒業生463名(男性242名、女性221名)で、その内連絡可能な人は約300名です。この会報を読まれた方で、1968年昭和43年卒業の誰々を知っているよとご存知の方は幹事の

長谷川誠一 電話090・4423・3060
高桑 孝一 電話090・9814・3715
へご連絡くださるようお願い致します。

「第11回富士銀行三商OB会」報告

第29期 本村博信



立春を過ぎてからも寒い日が続くなか、一転して小春日和となった平成31年2月16日(土)JR巣鴨駅近隣にある巣鴨スポーツセンター本館2階の「レストラン パルテール」において「第11回富士銀行三商OB会」が開催されました。
このOB会は三商を第20期・第30期に卒業して旧富士銀行に入行した人達の親睦目的に平成19年11月スタート、昨年は節目となる記念すべき第10回目を開催し、今回は第11回目の開催となりました。
当初17名から参加の回答があったものの、この会の発足から12年経ってメンバー全員が75歳以上になったこともあり、開催までに体調不良や都合などで4名の方が欠席、今迄で一番参加人数が少ない13名でした。

開宴の前に集合写真を撮ってから、参加者の中で最年長の昭和29年卒（第21期）中川満さんの音頭で乾杯、暫らく杯を酌み交わしながら懇談ののち、一人ひとりから、60数年前の銀行に入学した当時の話や近況報告など、今昔入り交ざった話で会は盛り上がりました。

近況報告の途中で前回同様「切り貼り「川柳」」が行われました。参加者を3つのグループに分け、各人が「上の句」・「中の句」・「下の句」だけを詠んで記入した句を集め、ランダムに並べそれぞれの句を繋げて「五・七・五」の川柳を完成させ全員の投票で優秀作を選出、優秀作・次点作「上・中・下」の詠み人6名に賞品が手渡されました。今回の優秀作品は「春の日に じじいの原宿 楽しんで」の句でした。

その後も引き続き近況報告が行われ、お互い健康であればまだまだこのOB会を続けられる・続けたいとの認識で一致。

予定の時刻となったところで、今年めでたく「喜寿」になられた36年卒（第28期）白田猛さんに締めていただき、新元号で初めての開催となる来年2月予定の第12回OB会における再会を約し散会しました。

珠算部OB会（三珠会）報告

第31期 西郵昭一

梅雨の晴れ間の太陽が顔を覗かせた令和元年6月11日（火曜日）に、不忍池を望む上野東天紅本店において、珠算部OB会（三珠会）を開催しました。昨年10年ぶりに開催致しました折に、以後毎年開催することとし、元号が変わり令和となった今年が

その最初の集まりとなりました。19期生から32期生までの23名（男性18名、女性5名）の参加を得、開会前に集合写真を撮影。12時に、主幹事の小暮清氏（23期）の司会進行によりスタート、始めに三珠会関係物故者に黙祷を捧げた後、谷内行夫会長（22期）の挨拶により開会となり、参加者最年長者の中野貞三氏（19期）の乾杯の発声により開宴となりました。



各年代毎の3つのテーブルでは、杯を酌み交わしながら、昔を懐かしみ、今を語り、暫し歓談の輪が広がり、一段落したところで、河田、西郵、荻野幹事の進行により、前回に引き続き「ビンゴ大会」となりました。河田忠男幹事（28期）が数字を読み上げる都度、各テーブルから一喜一憂の声が沸き上が

り、第1位から第8位までの「ビンゴ」当選者に賞品が贈られました。

その後、近況報告では、金井和夫氏（25期）からは社交ダンス、英会話等趣味を楽しんでいる話を、中野貞三氏（19期）からは三商珠算部の黄金期や諸先生の思い出話があり、引き続き大石傑一郎氏（23期）、渡邊昌行氏（24期）、細谷（旧姓浅川）実得子氏（29期）、

横田哲夫氏（27期）、内山泰男氏（23期）、大津嘉一郎氏（30期）、栗山義一氏（30期）の各氏からは、三商時代の思い出話や特技の三味線演奏を活かして文化活動をされている話、更には珠算を通じての母校支援の提案など様々な話を伺いました。

午後2時に幹事の荻野敬次氏（32期）の中締めの挨拶をもって一次会は閉会となり、その後、場所を東天紅2階の「カフェ」に移して、世代を超えた交流・歓談の時を過ごし、午後3時30分、次回の再開を誓いながら散会となりました。

同窓生の会合報告お待ちしております。

同期会をはじめ、クラス会、同じクラブや同じ企業に勤めた人たちの親睦会、様々な三商同窓生による会合を開かれましたら、ぜひその模様を同窓会事務局までお送りください。特にその模様を写した写真などもございましたら、一緒にお送りいただけますと、そのなごやかな様子をご紹介したいと思えます。

また、この会報誌をご覧になって、お仲間が各種会合を開催されているのを知り、連絡を取りたいなどの場合は、一度同窓会事務局にご連絡ください。連絡先は34ページに掲載しておりますので、ご確認ください。

第1号議案

活 動 記 録 (平成30年度)

No. 1

日付	曜日	摘 要	備考
30/4	7 土	東京校歌振興会 第27回総会	小山台会館
4	9 月	入学式	三商 体育館
4	20 火	平成30年度 会計監査	三商会館 4階会議室
4	24 水	理事会	三商会館 4階会議室
		第1号議案 平成30年度事業計画案、予算案について	
		第2号議案 評議員会にむけて	
		第3号議案 「三商同窓会報」57号について	
		第4号議案 東京校歌祭について	
		第5号議案 ホームページについて	
		第6号議案 東京三商会現況報告	
		第7号議案 その他	
5	26 土	平成29年度評議員会	三商 大会議室
		第1号議案 平成29年度事業報告承認の件	
		第2号議案 平成29年度会計報告及び監査報告承認の件	
		第3号議案 平成30年度事業計画案承認の件	
		第4号議案 平成30年度予算案承認の件	
		第5号議案 任期満了につき役員改選の件	
		その他持寄り議題	
5	30 水	学校運営連絡協議会	三商 大会議室
6	2 土	一商創立100周年記念式典・祝賀会(セルリアンタワー東急ホテル)	一商体育館
6	17 日	東京校歌祭 実行委員会	小山台会館
6	28 木	三商会計人会 総会	三商会館 4階会議室
7	21 土	理事会	三商会館 4階会議室
		第1号議案 「三商同窓会報」について	
		第2号議案 第26回東京校歌祭について	
		第3号議案 同窓生の集い(総会)について	
		第4号議案 ホームページについて	
		第5号議案 東京三商会現況報告	
		第6号議案 その他	
		終了後お弁当をとり事務所で暑気払いをする	
8	4 日	「三商同窓会報」57号 発送	
9	2 日	東京校歌祭 実行委員会	小山台会館

第2号議案

平成30年度 会 計 報 告

自 平成30年 4月 1日
至 平成31年 3月31日現在 (単位 円)

項 目	予 算 額 (A)	執 行 額 (B)	差 額 (B-A)/(A-B)	備 考
前年度繰越	9,376,568	9,376,568	0	
(収入の部)				
会費(86期)	2,000,000	1,999,136	-864	卒業生 200名
運営協賛金	20,000	19	-19,981	
事業収入	630,000	494,985	-135,015	
利息他	100	119	19	
収入合計	2,650,100	2,494,259	-155,841	
[支出の部]				
理事・評議員会	150,000	178,412	-28,412	
総会(同窓生の集い)	300,000	255,000	45,000	35名参加
新年会	275,000	278,000	-3,000	48名参加
校歌祭	150,000	132,216	17,784	約60名参加
同窓会報	450,000	623,592	-173,592	3700部印刷製本
ホームページ	80,000	97,200	-17,200	
活性化活動費	50,000	0	50,000	
母校部活支援	200,000	193,182	6,818	
就職活動支援	100,000	97,567	2,433	
母校支援	200,000	279,046	-79,046	懸垂幕の作成他
会合費	10,000	0	10,000	
慶弔費	50,000	5,000	45,000	
通信費	300,000	305,038	-5,038	
事務・消耗品費	80,000	0	80,000	
雑費	10,000	0	10,000	
東京三商会	600,000	600,000	0	
特別会計予算	200,000	200,000	0	
支出合計	3,205,000	3,244,253	-39,253	
次年度繰越	8,821,668	8,626,574	-195,094	
(事業収入内訳)				
1 新年会会費	150,000	151,000	会費¥3,000- 42名 祝儀¥25,000- 3名	
2 「三商同窓会報」広告収入	280,000	231,000		
3 同窓生の集い会費	180,000	96,000	会費¥3,000- 32名	
4 その他雑務収入	20,000	16,985		
合 計	630,000	494,985		

特別会計(周年記念事業)

上記のとおりご報告申し上げます。
平成31年4月16日

前年度繰越 603,960

会 計 渡 邊 秀 明

一般会計(86期) 200,000

会 計 小 林 慎 典

受取利息 12

収入合計 200,012

監査の結果正確である事を認めます。
平成31年4月16日

監 事 古 田 勝 一

差引次年度繰越 803,972

監 事 三 川 廣 志

第3号議案

平成31年度 事業計画案

- 今年度も前年度同様、若い世代に同期会を行ってもらよう働きかけをし、支援する。
- 例年通り母校支援に努める。

1 定時評議員会

令和 1年5月25日(土) (本日開催)

2 「三商同窓会報」58号の発刊

投稿締切 令和 1年5月末日(厳守) 発行 令和 1年7月1日予定
今回も広告をたくさん募集する

3 第27回東京校歌祭への参加

日時 令和 1年10月27日(日)
会場 杉並公会堂大ホール

4 新年会

日時 令和 2年2月8日(土)
場所 両国「ビューホテル」

5 活性化活動

同期会開催のコーディネートに重点を置く

6 支援活動

母校支援(部活動支援、就職活動支援、その他)

7 「公益財団法人 東京三商会」については逐次報告を受ける

第4号議案

平成31年度 収 支 予 算 (案)

自 平成31年 4月 1日
至 令和 2年 3月31日 (単位 円)

項 目	30年度予算額	30年度執行額	項 目	31年度予算額	備 考
前年度繰越	9,376,568	9,376,568	前年度繰越	8,626,574	
(収入の部)			(収入の部)		
会費(86期)	2,000,000	1,999,136	会費(87期)	2,000,000	
運営協賛金	20,000	19	運営協賛金	20,000	
事業収入	630,000	494,985	事業収入	450,000*	
利息他	100	119	利息他	100	
収入合計	2,650,100	2,494,259	収入合計	2,470,100	
(支出の部)			(支出の部)		
理事・評議員会	150,000	178,412	理事・評議員会	150,000	
総会(同窓生の集い)	300,000	255,000	総会(同窓生の集い)	0	
新年会	275,000	278,000	新年会	275,000	@5,500- 50名
校歌祭	150,000	132,216	校歌祭	150,000*	
同窓会報	450,000	623,592	同窓会報	450,000	3700部印刷製本代
ホームページ	80,000	97,200	ホームページ	80,000	
活性化活動費	50,000	0	活性化活動費	50,000	
母校部活支援	200,000	193,182	母校部活支援	200,000	
就職活動支援	100,000	97,567	就職活動支援	100,000	
母校支援	200,000	279,046	母校支援	200,000	
会合費	10,000	0	会合費	10,000	
慶弔費	50,000	5,000	慶弔費	50,000	
通信費	300,000	305,038	通信費	300,000	
事務・消耗品費	80,000	0	事務・消耗品費	80,000	
雑費	10,000	0	雑費	10,000	
東京三商会	600,000	600,000	東京三商会	600,000	
特別会計予算	200,000	200,000	特別会計予算	200,000	
支出合計	3,205,000	3,244,253	支出合計	2,905,000	
次年度繰越	8,821,668	8,626,574	次年度繰越	8,191,674	

(校歌祭予算)

参加費・広告費	60,000
交通費60名@1,000-	60,000
その他	30,000
計	150,000

(事業収入明細)

① 新年会会費 ¥3,000- 50名	150,000
② 三商同窓会報広告収入	280,000
③ 同窓生の集い会費	0
④ その他雑務収入	20,000
合 計	450,000

平成30年度特別会計(周年記念事業)		平成31年度特別会計(周年記念事業) (案)	
前年度繰越	603,960	前年度繰越	803,972
一般会計(86期会費)	200,000	一般会計(87期会費)	200,000
受取利息	12	受取利息	15
収入合計	200,012	収入合計	200,015
支出合計	0	支出合計	0
差引次年度繰越	803,972	差引次年度繰越	1,003,987

皆さんのHヒッセイ

バレーボールとともに

第23期 市川忠義

高校時代の思い出！(バレーボールに明け暮れた)

当時の母校はバレーボールが強かった。入学は昭和27年、前年はインターハイ、国体の東京代表チーム。1年生の時は先輩の卒業でせいぜい3回戦までの力：2年でレギュラーとなり常に決勝までに行くチームに育った。1年の時は10人ほどいた同級生が退部！3年生には5人が主軸となって戦った。2年の時は常に立教高校に負け準優勝どまり、来年は必ず代表になろうと皆で練習を考えた。行きついた答えは練習あるのみ！修学旅行返上！休みは元旦だけ、そして練習は朝、昼、放課後と一日5時間を計画：都電の始発では間に合わないので自転車通学とした。朝はサーブとレシーブ中心、昼も同じような練習だった。体は小柄、エースがいるわけではない。結束力で戦うしか武器はない。そこで取り組んだ課題は基本の充実！バレーの基本はレシーブとパス。この技を習得するのは子供のころが一番。先生、先輩に言われた通りの繰り返しで基本は自然と身に着いた。後は個人技をいかに伸ばせるか？自分は身長165センチで小さい。そこでジャンプ力強化に取り組む。バレーボールとの出会いは中学2年の校内球技大会で優勝したのがきっかけ。1年の時から登校、下校の際は背伸びして歩いた。校内でも勿論の事、革靴から運動靴に履き替えての特訓だった、ふくらはぎはパンパンに：練習にさしつかえる

事もあったが：この結果80センチのジャンプ力が90センチになった。更に砂場での縄跳び(二重跳び)が効いたと思っている。ジャンプに加え握力強化も行った。軟式テニスボールを常に握っていた。それと電車のつり革を鷲掴みに：などのことを実践、60キロから80キロに：リングを丸つぶしにした。お陰でバレーの基本中の基本が自分の体に浸み込んでくれ大きな財産となった。当時は就職難、インターハイが決まったことで大学の引きもあり、明治大学に進学する事が出来た。先輩の出町さんは1964年東京五輪の主将として活躍、(第三商業、明治そして日本鋼管)：自分は彼の後追い人生、1962年第4回アジア大会には共に参加6、9人制2種目で金メダルを手に帰国！高校大学そして社会人として同じところで過ごしたのは我々だけ：いまだ健在で彼の後の自分は次男坊！現在もバレーとは縁が切れない自他ともに認めるバレー馬鹿！当時は就職難！バレーのお陰で現在過ごせる事は果報者！以上取りとめもない事を記しましたがお許しください。

2019年4月吉日

今後どこかでお会いする事もあるかと思いますが、その節はよろしくお願いいたします。一老人として誰かの為になればと思っています。現在はバレーボールの語り部として後輩たちに伝授しています。

奇跡は再び！(2個2個人生)

始めの奇跡？自分を見てくれた占い師の話：運命的な星の下に生まれている…

1962年第4回アジア大会の事：インドネシア・ジャカルタ、この戦いには6人制、9人制2種目が開催。第3回は昭和33年東京開催では2チームを結成してそれぞれ金メダルを確保した。今回は遠征費節約で1チーム、したがって6、9ともに出来る選

手を選抜して戦った結果共に金メダルを確保した。このような事は後にも先にもこの時限りだ！

東京五輪新種目となったバレーボール、その第一期に選抜された中に主将の出町先輩、と私が選ばれた。高校、大学、実業団(NKK)と先輩の後追い人生も運命か？同窓メンバーは何人もいるが、此処までの関係は皆無！高校から大学に進学した人はバレー部にもたくさんいたが明治に進学したのは二人だけ、その二人が日の丸をつけられた事も運命！明治入学率100%！金：メダル2個

次はゴルフ：どんな事？連続ホールインワン！ギネスものの記録に遭遇。バレーを引退するころゴルフブームに：1966年(昭和41年)からクラブを握った。5年後の昭和46年5月1日・ところは名門・川崎国際ゴルフ倶楽部、ご存知のようにゴルフは、アウト・イン9ホールずつ1ラウンド18ホールで行う競技。そこにショート・2、ロング・2、ミドル・5の合計スコア72で戦う。そのイン18、16のハーフラウンドの出来事！13番175ヤード(7番アイアン) 昼前で太陽がまぶしい。良い方向にボールは飛んだが見えなかった。キャディさんの声(入った！)、びっくり！出費が掛かるので黙っておこうと：しかし続く16番で又入った。今度は155ヤード8番アイアンで：このままで行けばこれほど大掛かりにはならなかったが後続にアメリカの記者がいたので世界に広がってしまった。昼食時にインタビュー：何かエピソードがあればとのことだったのでアジア大会バレーボールで金メダル確保と答えた。ジャパンバレー代表の記録としてアメリカ、イギリスへ打伝された。連休中だったので連休明けには日本の各新聞に取り上げられた。テレビ以外の報道で忙しい日々を過ごした。全国の仲間からの電話

も半端ではなかった。これらは良かった事の2個2個物語：反面災難はアキレス腱断絶左右両足（バレーボールの試合で54歳と67歳）を晩年切ってしまった事。そして最大のピンチは喜寿を迎える年になって膝臓癌を患い、その4年後に再発。今では膝臓を全部摘出し、糖尿病患者になってしまったが何とか元気に過ごしています。バレーボールとは縁は切れず、今でも大学の面倒を見ていることが健康の源と思っています。

他に投校をと思っているものとして：五輪種目で結成されたバレーボールオールドジャパン第1回ヨーロッパ遠征に関する記憶メモ！そして自分史でもと考えています宜しく

2019年5月吉日

バレーボール今昔物語

バレーボールと言う球技が日本に導入されたのは、今から100年程前20世紀始めと言われている。当時は9人制が主流、そして6人制へと移行してきた。自分も今から半世紀程前にバレーボールと出会った。

自分の知る限りの記憶を基に思い起こしながら以下述べて行きます。何処まで記憶が定かかは兎も角としていろいろな角度から記す事にしました。

9人制は極東ルールとして戦後大いに普及、戦後の復旧系偏景気から繊維関係の会社が熱をいれ、女子の方は日本の大手紡績会社のチームが活躍、一方男子は、やや遅れ金偏景気により鉄鋼メーカーが活躍していた。勿論9人制である。

オリンピック種目に参入（国技の柔道と共に）：そして6人制（国際ルール）の時代を迎える事になる。6人制が本格的に取り入れられるようになったのは、1964年東京五輪の正式種目になった時から、それ以前にも世界友好大会（1957年モスク

ワ）で日本の代表が参加している。そもそも日本に6人制が来たのは1955年頃、早稲田大学がアメリカに遠征して日本に持ち帰って来た事から始まる。当時のルールはかなりいいかげんな部分があった。サーブを打つまでは動いてはいけないと言う事で、手をあげていたらそのままの姿勢で止まっていた。不自然な感覚であったが皆信じていたから面白い。そのような時代を経て、1960年ローマ五輪後の第18回東京大会種目として一躍脚光を浴びた。オリンピック1次合宿が香川県丸亀市にて行われたのは1961年3月のことである。その後強化合宿を重ね東京大会となるのだが、これまでの多難な出来事について触れておく事にします。

ヨーロッパへの武者修行：

時は1961年、（この年ソ連の人工衛星が始めて大気圏に飛んだ）8月全日本男女チームが2か月に渡るヨーロッパへの遠征に出かけた。男子はピックアップチーム。女子は大松監督率いるニチボウ貝塚。当時の飛行ルートは南回りのみ、2昼夜かけて最初の宿泊地オーストリアのウィーンに着く、この遠征先は共産圏に胸を借りる目的からソ連を中心とした東欧諸国、ブルガリア、ルーマニア、チェコ、ソ連（モスクワ、スターリングラード、レニングラード）、ポーランドと渡り歩いた。

その戦跡？男子は歴史に残る22戦全敗だった。女子はまるで逆の全勝だった。この遠征の後半ポーランドで『東洋の魔女』と命名された。

男女の相違はレベルの差が大きい。へ負け惜しみではありません

チェコで三大陸選手権大会に参加（後のワールドカップ）女子は優勝、男子は最下位の結果となった。この遠征の後、翌年世界選手権が行われ結果五位、

そして翌1963年東京五輪プレオリンピックにソ連を招き3・1で大勝し、本番を迎え、ソ連、チェコについて日本は3位となった。価値ある銅メダルだったと思う。女子はご存知金メダルに輝いた。そしてメキシコ、ミュンヘン、モントリオールとメダルを取る事が出来たが、今の力は予選も通らぬ寂しい有様。身体も大きくなり、力も外国勢とあまり差が無くなってきたように見えるが、何処に原因があるのか？理解しがたいものだ。

バレーの取組み方：

我々の時代は、9人制のプレーヤーが、6人制を学んできた。パスの基本を熟知していたから流れに於いては、バレーのイロハ方程式に戸惑いが無かったように思える。しかし初めから6人制を学んできた人たちは、パスが組み手のアンダーパス、是では攻めるタイミングに無駄が出来てしまう。このことへの理解が未だ徹底されていないように思える。従ってこれからの選手作りには、先ずパスを始めるのうちに意識させる事が大切だ。そのためにも子供の頃は9人制で基礎固めからやる事も一つの方法と思う。打つ事は早く覚えるものです。パス、レシーブは時間が掛かるものです。しっかりと時間を掛けて覚えた事はなかなか忘れるものではありません。子供の時にイロハを仕込んでおく事がこれからの課題とします。

選手の心構えの大切さ！：

自分が選んだ種目（バレーボール）好きだからやるのだと思います。やるからには勝ちたい、その気持が練習に向け、練習の量が答えを出してくれるのだらう。時間を作り、汗を流し、時には嘔く事もあろう。しかし好きなものへの挑戦！だから我慢もし、涙を流し、戦うのだらう。汗の多さ、練習にどれだけ時

間を掛けたか、いろいろなものが力となって自分を形成してくれている。根性だ、気合だと昔は当たり前だった。だが今でも必要な事なのだという事を忘れてはならない。決して死語となつてははいない事を改めて自覚をしておいてほしい。

バレエのイロハをマヌシーしよう

* : 1961年6人制バレエのコーチとしてチェコよりキンダー氏を招いた！

各地で講習会を開き皆練習に励んだ！古きよき時代であった。

武者修行の思い出・あれこれ！

1961年8月半ば、羽田空港を発つSAS航空の4発機に搭乗、一路目的地に向かう。この機には男女のバレエチームとユニバーシアード参加の体操チームが同乗していた。南回りの長時間のため5～6時間毎に給油が必要、初めはタイ・バンコック、次はパキスタン・カラチ、エジプト・カイロ、イタリア・ローマを経てウイーンに着いた。スチュアーデスはソバカス顔のトシマさんだった。そして顔の印象は漫画のドナルドダックに似ていた。(声もどちらかと言えば嗚れ声)南回りの為、何度となく朝食のコールがあった。4～5時間毎だったように思えた。ドナルドの声で目を覚ます。GOOD MORNING! “coffee or tea?”とネ：皆寝ぼけ眼で又朝飯か？なんて言いながらもパクついたものでした。

給油の為各空港で2時間ほど休憩、体がなまるとは軽い体操をして過ごした。体操チームのメンバーも同様に動いていた。中には機内で逆立ちをしていた選手もいた。空港では外に出るわけにもいかず、構内で過ごすしかない。その匂いも国柄から様々カラチでは葉巻のきつい香り、気持が悪かった

のは壁にヤモリが沢山いた事。異様な感じがした。

このような時間(羽田から2昼夜)が経過してようやくヨーロッパのベッドに着いた。気候もよくすがすがしい朝を迎えた。1日を市内観光に費やした。戦後の映画でウイーンを舞台としたスパイ物『第3の男』が有った。その中で公園の観覧車が写されていた。森の向こうにそれが見られた。そして市役所の中庭でベートーベンの胸像を見学。翌日始めの訪問地であるブルガリアの首都ソフィアに着いた。1週間程滞在し次の地ルーマニア・ブカレストへ移動、ホテルの中庭にプールが、其処では当時珍しかったピキニスタイルの女性の姿が多く見られた。16ミリカメラでズームアップして眺めたりしていた。次の目的地はチェコ・プラハ、さすが工業国といわれる大都会だった。此処では人見絹江さんの記念碑を見学、試合は全て負けの面白くない遠征だったが息抜きには良かったように思えた。ソ連はモスクワ、レニングラード(バルチック湾にそそぐピョートル宮殿からの運河)、スターリンググラードの試合会場は驚きだった。何と競輪場に枕木を配したコートでのゲーム、是では転ぶ事も出来ない。とげだらけのお粗末なコートだった。そこで日の丸をつけた選手が戦っていたのだと思うと不思議な気がする。同時に滑稽だった。チェコからモスクワへの移動は初めてジェット機(エアロフロート)高度1万メートル気圧の関係で万年筆のインクが漏れYシャツを汚してしまった。そして共産圏最後はポーランド・ワルシャワ、今までのところとは少し異なった雰囲気を感じた。共産圏とは言え個人企業(少人数の場合)が許されていたようだ。町は綺麗に整い道行く女性も美しく見えた。町の人から聞いた話だが、この国の格言で『食わぬとも着飾れ!』という風習がある

らしい。他の共産圏諸国とは大いに異なる点である。ファッションにこだわりを感じた。後で尋ねたフランスとあまり変わらぬようにも思えた。

小パリと言われる町のゆえんである。町の表はこのように見えたが、一方裏を覗くと砲弾の後が生々しい。第二次大戦でドイツに往復ビンタを食らった事はつきりと伺えた。1カ月半の共産圏から自由圏に入ったのは10月初旬、デンマーク・コペンハーゲンに着いた。まるでお上りさん、ネオン輝く大都会に皆きよきよと何処に視線があるのやら：それからスイス・チューリッヒ、フランス・パリ、タイ・バンコクを経由して最後は香港へ此処で9人制のゲームを2日行い帰国した。2ヶ月と言う長旅だったが無事帰ることが出来てよかったです。食事でも大変な事があつたり、南京虫にやられて忙しかったり、何かと思ひ出多い遠征だった。このような歴史があつたからこそ、その後の戦跡に光るものが感じられるのではなからうか？

遠征に関するエピソードも色々ありますが、この項ではこの位にしておきます。

後記載しようと思えば、サーカスの見物やポラロイドカメラに人だかりがした事。そしてショパンの生家を見学した事。バレエボールで疲れた合間の憩いのひと時等が思い出される。当時はなかなか海外に行く事が出来なかつたが、バレエボールをしていたお陰で思いもよらぬ体験が出来ました。よき時代にも恵まれた事を感謝しています。本日66歳の誕生日を迎えた。

全日本チーム結成!

2003年5月23日

1964年五輪東京大会に新種目として参入したバレエボール(柔道と共に)初選出されたメンバー

は実業団選手権が大坂で開催された直後の6月のこと。監督は坂上氏、コーチ・兼選手・松平、出町主将〔日本鋼管〕津田・〔東レ〕、小山〔富士フイルム〕、谷中、深川、市川〔日本鋼管〕、松本〔シチズン〕片岡〔八幡製鉄〕、当間〔松下電器〕、南〔旭化成〕、小瀬戸〔帝人三原〕選手11名。

8月からの武者修行のため東ヨーロッパへの遠征が計画されていた。

結成から2ヶ月足らずの全日本チーム、ルールもまだ認識不足の時期であった。選手の殆どが攻撃者：果たして戦う集団が完成するのか？難しい環境であったが、時間経過につれ見られるチームまでに育ってきた。

どのような練習をすればよいのか？暗中模索の練習に明け暮れた。毎月2週間の合宿計画だったが、前半1週間は若手中心の合宿、これに参加したのは当間、南、小瀬戸、松本、市川の5名、サブプレイヤー主体の練習だった。攻撃者のレシーブは見られたものではない。またにもボールをコントロールが出来なかつた。朝から晩まで何本サーブを打ち続けたことか？南、小瀬戸の苦労は計り知れないほどだったが、翌年東ドイツで行なわれた世界選手権に5位となったことで練習の成果が証明された。東欧諸国への遠征結果は歴史に残る22戦全敗であった。このような体験から1972年ドイツ・ミュンヘンでの五輪では金メダルを手に出ることが出来た。それまでの足跡は：1963年プレ五輪ではソ連を招き全日本チームが初勝利した。翌年の五輪本番でもソ連を破り3位となる。次期五輪はメキシコ大会、これに向け日本リーグを結成、大型選手を育てることで2位を確保した。その延長線上にドイツ大会の優勝が生まれている。

一時は世界に通じるような戦いが出来るのか？本気で考えてきた全日本、女子が東京大会で金メダルを確保して人気も上がり、ドイツ大会に繋がったことと思っている。やがてルール改正によりお家芸の小技が外国のパワーに押される結果となったことは残念だが、これからも改革に力を入れることで昔のような戦いが出来るようになることを願っている。2020年の東京五輪も決まる。どこまで戦えるチームが出来上がるかは難しいと思うが、決してあわてることは無い。近い将来再び日の目が当たることを信じて基本の充実から取り組んで欲しいものだ！

2016年12月

我がバレーボール人生を省みて！

（出会い・現役時代・引退そして現代に至る・

1951年から2018年）

我が人生を振り返つての物語の始まり：思い出をもとに記してみた。

パートⅡ1 バレーボールとの初対面は、中学2年（1951年昭和26年）の校内球技大会だった。（当時は柔道部に所属）：ガキ大将の多かつたクラス、ここで優勝した事がきっかけとなり今日に至る。そして高校に入り本格的なバレーと取り組んだ！高校は都内でも名門だった都立第三商業高校。先輩（出町さん）たちはインターハイ、国体に参加して卒業、1年の時は大した成績を収める事が出来なかつたが、2年生でレギュラーとなり全ての大会では決勝戦まで進む事が出来たが全国大会までの力はなく過ぎた。

3年生の時には当時大型のチームとして全区大会の経験がある立教大学付属高校に勝利してインターハイに出場、2回戦で地元神戸高校に敗れた、この時の決勝戦は兵庫県同士の戦いで琴ヶ丘高校が優勝。

このチームに所属していた深川君・奥君たちとの出会いが今日までバレーボールと向かい合つて過ごしてこられた大きな原因・財産となっているものと思っている。

卒業後明治大学に入学したのは1956年（昭和30年）の事。

パートⅡ2 明治大学から日本鋼管に至る時代の物語：

大学時代には日本のバレーの主体は9人制バレーボールだった。東京五輪に新種目として登場したバレーボール、国技の柔道とともに登場する事に決まったのは1961年（昭和36年）である。

学生時代の戦績は：リーグ戦7連覇、連勝記録を塗り替えた。全国大会としての記録は1年の時インカレ決勝戦で関西学院に敗れた、その他関東総合選手権大会や天皇杯に参加したが主だった記録は定かではない。

1年生の時はほとんど球拾いの日々を追われていたが、2年生で補欠として全国大会に参加する事が出来た。

3年生でレギュラー（中衛センターに抜擢され）として認められた。ここからが全盛期の戦いが始まる。リーグ戦は勿論連覇街道まっしぐら：このような時代の中心で良い働きが出来た事は健康であった体と思っている。

インカレは残念な事に決勝戦の結果はまたまた宿敵関西学院に敗れてしまった。敗れた原因については後で詳しく伝える。

全国に繋がる大会での関東総合大会、天皇杯の成績はベスト4以上の成績を収めている。

4年生では天皇杯の準決勝戦での戦い相手は当時の日本第1位の力ある住金チームこのチームには名將

西田さん、そしてアジア大会優勝でエースとして活躍していた主砲の松永さんなどそうそうたるチームと準決勝戦で戦い惜敗した事が胸に何時までも残っている。明治のエースとして活躍していた大砲役の当間君、速攻の名手だった川崎君の二人が今で言う熱中症により力は半減しての戦いが実に残念でならない。

その結果が秋のリーグ戦に繋がり8連覇の夢が途切れた。これが原因で成績は7勝3敗同率での2位となってしまう。以上が学生時代の戦績。

この結果が認められて昭和の明治時代が築かれた事は事実！

パートII 3 明治大学を卒業後日本鋼管に入社、これからは大きな時代に：五輪に参戦、世界選手権の戦いなど世界に繋がるチームを結成して五輪を迎える事になる。実業団での成績については後で詳しく記す。

これまでに至るもろもろについては：次の様なことである。

先ず入社以前に鋼管の選手として海外遠征が行われ、新人として翌年から一人前の社会人となる自分たちと共に香港、台湾遠征に同行出来た事は大変ラッキーだった。

社会人一年目の戦績は：初戦が例年行われている都市対抗戦、会場は常に大阪府立体育館と決まっていた。初戦は簡単に結果を出してきたが決勝戦は実業団チームで一番の八幡製鉄（現在の堺ブレーブス）2対1での惜敗だったが、この年は他の大会すべてに優勝を独占する事が出来た。

日本一の戦いは今年から続き昭和の黄金期を作り上げた。

五輪種目として初めて選抜チームが結成され、女子

はニチボウ貝塚単独チーム、男子はナショナルチームとして誕生その一期生となる。この中から第18回東京大会に選ばれる事を信じて世界と戦ってきたが、残念な事に五輪参加は夢に終わってしまった事が心残りでならない。

大型化を目的に選ばれていたころの事で仕方がないことは思うが国の方針には逆らえない。

当時のメンバーで現存している中では自分が年齢的には次男坊的存在！

仲間の殆どの先輩たちは存在なく、五輪主将の出町さんに続いての年となる。同期の仲間も少なくなり後輩たちの減少には悲しい思い出で一杯な気持ちだ。国体は5年連続出場し優勝3回、2位が2回と

確率は一番だ！実業団選手権大会は現役中に3度の優勝、都市対抗は2回天皇杯2回がある。その他

としてNHK杯の優勝、国内に関しては異常だが国際試合での成績は、第4回アジア大会での6、9人

制に参加して共に金メダルを獲得できた。

プレ五輪では最高峰であるソ連を招き3対1での勝利を収める事が出来た。1961年に2ヶ月間にわたるヨーロッパ遠征では歴史に残る不名誉な戦績

(22戦全敗)に終わったが、その後の成績は：翌年開催された世界選手権は5位。

そしてプレ五輪に至り1964年の本番を迎え、結果3位の銅メダルを確保。東京に続いてメキシコ五輪の2位と上に向かつての進撃は続き、1972年のミュンヘンでは夢にまで見た優勝に手が届いた。これで3大会にメダルを獲得した。3段跳びの

ホップ・ステップ・ジャンプができた事になる。

その後においての五輪は惨憺たる結果だ！その後の現況でメダルは届かないありさまだ！参加も出来ない事はさみしい限り！東京五輪の後には日本の技

術も認められたが、ルール改正が毎回のように行われた事が日本を弱くした一因だと思ふ。外人向けの力のバレーに変貌してきた。

やがて2回目の東京五輪2020年を迎える事になるが、果たして前回収めたような結果が得られるとは考えられない。

1967年日本リーグ発足！当時は6チームでの戦い。参加チームは八幡製鉄、松下電器、日本鋼管、専売広島、富士フィルム、住友金属：2部としての実業団リーグが結成された。

一回目の成績順位は八幡製鉄が優勝し幕を閉じた！翌年は日本鋼管の時代の幕開けとなる。五輪以外の全てのメダルを手にして引退出来た事は運の強さに加え、良き時代に生まれ結果このような環境になったと思ふ、バレーボールには大きく感謝している。

パートII 4 その後のバレーボールは？

引退後は社業に専念していたが、母校（明治大学）が2部から3部に降格し、影のコーチとして1部復活に携わり何とか1部に昇格する事が出来た。1956年の事：春リーグで3部に落ち、その年の秋リーグで2部へ昇格、翌年春2部で入れ替え戦の結果現在の筑波大学を破って1部に復帰。この年のインカレでは3位となる。更にこの頃は大変忙しかった。日本リーグを目指していた日本電気（NEC）の影の

コーチもしていた。監督の角田さんは出町さんと同期の先輩、自身に6人制の経験がないので頼まれての仕事だったが5年経過したときにはリーグに上がりVリーグを取るまでに育ってくれた。

その後はじじばばバレーで61歳までと50代に開催されていた国体のシニア部門で常に東京代表としてバレーを楽しんでいた。そして母校が再び3部に降格した時先輩からの依頼で明治の同期生だった海野

(東レ)と共にスタッフの一員として海野監督のもとでコーチを務め現在の基盤を築いた。学校の選考基準が昔と変わり推薦制度が広がった事が大きく力となって今日の成績が出来り上がり現在に繋がっている事は確かだ！

来年は元号も新たに制定される年！古豪明治の復活も夢ではなくなって来た事は事実だ！新しき歴史に向かい進め明治の横断幕を是非実現してほしいと思っている。

追加として今までの勝敗に関する思い出について記す！

勝ち試合は多かったが、記憶に残るような戦いはほとんど覚えていない。

おそらく勝率は学業と異なり最優秀と記憶している勝率としては9割を軽く超えていてだろう。(バレーに関してはノーベル賞もの?)

勝利記憶での戦いは卒業した年の天皇杯、ここで母校と戦い、何とか優勝したフルセットの僅差での勝利が一番の思い出か？

この他は負け試合！1958年の天皇杯では関西学院との準決勝で自分が試合中に痙攣を起こしての敗退、先に記した4年生の時の天皇杯、そして1962年の天皇杯で東レと決勝が行われフルセットの接戦だったが、惜敗した原因は自分の単純ミスだった事(外へサーブを打った)アウトオブポジションのミスが認められなかった事がミスになる。相手のポジションが一つ違っていたにもかかわらず認めてもらえなかった事は残念！

以上が自分の体験談として記憶に残っている。自分の足跡を見つめる機会が出来てバレーボールに感謝する事と思っている。今までの体験をもとに我々の仕事は次世代への語り部としての仕事ではなからう

か？と常に感じている。世の語り部として今後行動を続けられるよう健康管理と共に働く事がこの上ない幸せと思っている。人はなぜそこまでめり込んでいるのかとの意見を耳にするが、自分としての回答はいつもバレーが好きなんだと言ひ、一生バレー馬鹿に徹する事が出来れば日本一の果報者とし人生を送れる事が最高な人生であろうと思っている。

2018年平成最後の暮れに際してのコメントを記してみた。 2018年12月吉日

*バレーボールの心を求めて、バレー哲学に魅せられての人生は悔いなきことと感じている今日この頃：以上バレーボール中心に考えた自分史とも言えるコメントです。

自分の生い立ちについて！

東京生まれ、田舎がない9代目の江戸っ子！(母方からみて：母の先祖は藏前で札差業を営んでいた) 1937年(昭和12年) 5月23日生まれ、墨田区亀沢2丁目で産湯をつかった。昔は本所双葉町と言われたところ。

関東大震災(大正12年9月1日)、第2次大戦の下町大空襲(昭和20年3月10日)に合ったところだ！小学校は軍事下だったので国民小学校、昭和19年4月に入学この頃になると本土にもアメリカ軍の飛行機が飛来して、空襲警報のサイレンが鳴り響く毎日、学校へ行っても授業はあまり出来なかった。給食のコッペパンをもらって帰宅する事が多かった。当時高学年は縁故疎開で東北や信越へ：自分は低学年だったので親せきへ：

祖母の実家の埼玉へ：そして翌年敗戦を迎え6年の夏に東京へ戻った。焼け跡だらけの故郷へ：小学校は入学したところで卒業。両国中学に進む！ここで出会ったバレーボール、高校に入り本格的に

バレーに取り組んだ！インターハイを目標として皆で夢見ながら何とか目的を果たす事が出来た。そして大学へ：母校明治はリーグ戦の連覇記録をたて当時は昭和の明治時代と言われた。

バレーボールのお陰で就職は願ってもない企業に入ることができた。当時は就職難の時代？特に片親の場合はかなり困難だった。自分は幸運に恵まれ目的以上の幸せを味わう事が出来た(父は32歳で戦死)。お袋が大変喜んでくれた。親に対する恩返しの一部が出来たと思っている。

そして入社したチームは当時日本一の日本鋼管、ここでほとんどの大会を優勝する事が出来全日本チームの代表に選ばれた。その後東京五輪(昭和39年第18回大会)に新種目として国技の柔道とともに参加する事になり、JAPANの一員として東欧諸国への武者修行に行く：(1961年8月)

翌37年8月はアジア大会(インドネシア・ジャカルタ)優勝、9月は東ドイツで行われた世界選手権5位、38年プレ五輪は最強だったソ連を招いて優勝、この勢いで東京五輪を迎えるが結果は3位となる。その後の五輪の結果はメキシコで2位、1972年のドイツ大会では男子が初めて金メダルに輝いたが、その後はメダルに届く事はなかった。

自分のバレー人生は実業団で9年の現役を行い20歳から31歳までのすべての試合に参加、殆ど金メダルを確保する事が出来とても幸せだったと思っている。その後仕事を終え母校のコーチを何年かして退く：

良くもここまでやってこられたのだと感心するばかり：これからは歴史の語り部として役に立てればと思っている。

2019年4月吉日

バレーボールの心理！

スポーツ全般に言えることだが、技術の大切さは言うまでもなく勿論のこと、しかし心理面の気持ちがより大事なことと思っている。

自分の体験から過去を振り返ってみると、精神面の方が勝っていたように思う。なぜだろうか？優勝した時の記憶が以外と乏しかった事に對し、負けた時の試合については色々なことが思い出される。ミスした悔みなどが…これは勝ちたい気持ちの空回り、心の雑念が夢の答えに届かなかつたのだと考えられる。

バレーボールと言う球技は、相手とネットで仕切られている。味方の事も視野に入れての仕事（繋ぎ）をせねばならない。

バレーボールは瞬時の運動、そこで予測の必要性を体に記憶させておくことが大事。瞬時の事に対応出来るなければボールは繋がらない。そして工夫を…どのように対応すれば、ボールが上手く繋がるか？更に記憶が大事な要素！言葉だけでは判りにくいと思うが、練習を重ねることで自分の大きな財産となるので鍛え続けてほしい。

勝利の方程式などというものは無いが、厳しい練習に耐え、練習で培った自信と勇気を持って負けないぞ！と言う気持ちがあれば勝利への確立は高まる。勝負は時の運！と言われるが、確か運も左右する事を経験してきた。勝負は下駄を履くまで判らない。決して最後の最後まで油断することなく集中力を持続して戦い抜く心構えが大事な事。気持ちとしては、ここまで練習をしてきたと言う自負心も大切な要素！勝負は相手との戦いではあるが、己に勝つ精神面の強さを養う事が大事だ！

気持ちを楽にして、力を抜いて、落ち着いて戦え等と周りはそれなりに選手に声を掛けるが、やるのは選手！良い環境で戦わせる事を周りの者は考えて伝えることが大事。

試合になったらリラックス出来れば良いが、あまり神経質にならないことが勝利に繋がるのではと思っている。この環境を整えるのは選手！声を出し、足を動かしてこそ平常心で戦えるのではなからうか？笑顔を絶やさず！声を掛け合い！明治大学の誇りと自信を胸に！元気を出して…そして平常心で戦えるチームに早く育てて欲しいものだ！

2017年11月吉日
夏の遠征で秋のリーグでしっかりとした答えを出すことが選手の仕事！新しい明治の姿を披露せよ！インカレに向けてGO！

来て みて 聴いて

同窓会総務委員長 第29期 土方敏之

2月9日、大雪情報がテレビから伝えられる中、朝から昼にかけて雪が降りました。しかし、午後になると止んで寒いけれど明るくなりました。

ワイシャツの首ボタンがはめられないので、手間取って仕方なくネクタイを緩めて結びました。履物も長靴か革靴かで迷いましたが、もう降らないと信じ革靴で出かけました。そして、地下鉄の駅まで降られずに行くことができました。外は見えないので広告を見廻して何か変わったことがあるかどうか眼で追い、スマホを見て指を動かしている人を観ながら御茶ノ水駅へ。JRに乗り換え両国へ。新年会会場ビューホテルへ着くともう杉本光男さん達がおりました。

受付の準備、そして宴会場の準備をしていると同窓生が顔を見せ始めました。同窓生が「来て」顔を「みて」総務委員会による新年会はスタートしました。聴いてほしいのは、来賓のご祝辞による国や東京都や江東区、母校三商の現状、そして同窓生による本年の希望、夢、などなど同窓生一人ひとりの言葉で20期の方々からそれぞれの思いが語られます。

こうして世の中の動きや人間の成長等、心底から感じるものが伝わります。年の初めにその一年の、自分にとつて助けになる事柄が噴き出してきて、来てよかった。との、思いを感じられるはず。来年は来て みて 聴いて 下さいね。おまちしています。

映画狂の君を想う

第27期 江角喜一

高校卒業後50年記念として、平成22年4月11日に上野の中華料理「東天紅」で都立三商第27期の同期同窓会が開催された。最初にして最後の出席になるかと思いつつ、我が越谷より東武線・地下鉄日比谷線を経て上野駅下車した。ついでタクシーを乗り継いで開会定刻の午後4時少し前に東天紅に着く。会場はすでにさわがしく、受付資料から出席者136名とあつたから当然である。会は1年次、2年次、そして3年4組の面々と乾杯しては語り各テーブルを回って盛り上がったが、実はちよつと会って見たかった友を探したのである。だが残念なことに彼は出席していなかった。

その友とは1年6組のとき一緒だった長身で心やさしい内田英夫君である。彼とは特に親友という訳ではないが、映画好きという一点で共通していた。そ

の内田君はなんと高校の部活ではめずらしい映画研究部に入っていて、くの字型の3階建校舎の1階の一方の奥に雑然とした部室長屋があり、その一角に彼が所属する映画研究部部室があった。

「俺だけど、またただ券くれよ。」

「おお江角がよくきたなあ。あるあるぞー！」

「そうかわるいなあ、サンキュー。」

映画研究部はどんな活動しているのかわらぬが、映画配給会社が映画上映館から無料招待券を配られるらしい。そのただ券をねらって僕は映画研究部部室にたびたび参上するのである。かくて、放課後か休日になると浅草の「大勝館」や錦糸町の江東楽天地の「江東リッツ」に何回も通い無料で好きな洋画を楽しんだ。

今はアメリカ一辺倒の映画ばかりであるが、往時はヨーロッパの映画も多くロードショーされていた。イタリアの可憐な女優ジャクリーナ・ササル主演「芽ばえ」やドイツ映画「菩提樹」、ウイーン少年合唱団を描いた「野ばら」などを思い出す。アメリカ映画では、カーク・ダグラスの「バイキング」「スパルタカス」を見たが、なんといつても「大いなる西部」がそのテーマ音楽とともに印象深い。主演のグレゴリー・ペックや我が憧れの女優ジーン・シモンズが一昨年・昨年と亡くなったのはまことに寂しいかぎりである。

さて、当然映画評論家になってしかるべき内田英夫君であるが、同窓会名簿で調べたところ家業を継いでいるらしい。彼はすっかり映画を忘れたカナリヤか。しかし僕は依然として映画狂である。昨今は、ジェラシックパークやハリポッターなど特撮をふんだんに使った洋画が盛んだが、どうも子供だましに思えて気に入らない。それに反し、数年前に新宿

の松竹セントラルで見た「タイタニック」は久しぶりに感動した。つい同じ物を2回も見てもしまい合計7時間座り続けた結果、立ち上がるうとするもさすがに腰がたたなかつた。いずれにせよ、Humanな映画こそ、もつともよろしいと僕は感じるのである。



昭和は遠くなりけり

第21期 細田 武

※「新入生の頃」

都立第三商業に昭和26年4月入学の現在83歳の青年です。

大東亜戦争のお陰で9歳の身で集団疎開。蚤と虱と食料難。小学3年で戦争！体験者。1947年入谷の大正小学校を卒業する。併設の区立大正中学へ。3年生の春、アチーブメントテスト（死語になる）9科目の試験と大正中学校（後の悪名高き竜泉中）の内申書に依る入試により当時は難関の本校に運良く合格。当時、下町の商家の子弟や金持ちは（安田か、早稲田実業）へ、併し、小商人の我が家では旧市立2中の上野か旧府立3中の両国と同等の都立第三商業の受験に親子共々期待をしたし、また期待されていた。父は長年、新川の酒屋で修業を終え、苦労の上に1933年（昭和8年）に入谷に丸喜屋酒店を開業。5人の子を育て上げ、戦争にも召集されました。苦労話は色々聞かされましたがそれが理由ではなく自然と自分の店の跡継ぎを と考えました。

※「遊び盛り」

近くに三商のOBの7期の鬼頭誠一さん高校出身で初の（三井物産社長）、12期の王様製菓の木村秀司さん、母がたの従兄弟で14期の築地伊勢相の相沢金次さん、浅草・雷おこしの16期穂刈幸雄さん等、大勢の先輩の影響は大きな励ましとなりました。只、制服が背広スタイル。ネクタイ着用です。近くの仕立て屋で父の背広を裏返し、左にあるポケットが右についた背広の学生服も何の違和感もなく着て入学しました。戦前の三商生が学徒出陣等で戦火に殉じた人がいたことに比べ、我慢の出来る自分でした。通学は入谷「新谷町」から都電三輪橋から出る31番の都庁前行き、満員なので出入り口にぶら下がり蔵前のカーブで手を離しそうになることも。丸ノ内で乗り換えて不動前下車の小1時間の通学。

担任は1年時黒石先生、2年は吉岡先生、3年は椎名先生、5組の自営・就職の混合組。6組のピテカンこと竹田先生との交流授業。期末や中間試験は時間前に出来ただけで退室。商業簿記は2級、算盤検定3級を取得し、レミントンの英文タイプでコレポンでなくその頃流行りのジャズの歌詞を打っていました。♪
 (Tennesse waltz · i was dancing with my darling) 等、部活は陸上競技部、第二本科といわれた夜間部に橋本先生が入ってから御殿場市の高校と共に1週間の強化合宿を行った記憶は強烈に残ります。富士登山を日帰りで強行したことも思い出に残ります。実技は大して速くも、高くもないのに吉住晋作先生の要請で部員は戦後の陸上競技のあらゆる大会の補助員を手伝った。目当ては、少しの交通費と旨い弁当が目当てです。ついながら売店の



(バイネー) や夜間部の脱脂粉乳ミルクを飲むと翌朝下痢をしたユニセフ紛いのご馳走もあった。そんな弱体で神宮陸上競技場が未だナイルキニツク競技場と言われたトラック(シンダー舗装)で、炭殻を撒き、固めた為に直ぐにスパイクの針でめくり上がり、補修に苦勞しながらジャマイカのマッケンレーの400米や、ブラジルのダ・シルバの三段跳びを目の当たりにできた数少ない少年の一人でした。

豊洲運河沿いのグラウンドでは今ユニデン株式会社社長の藤本秀朗君が華麗な守備を見せ、体育館では明治から日本鋼管へ入り全日本でセッターを勤めた出町さんがバレーボールのネットを揺らしてしました。

学校協の住宅に日展で特選を取った美術の横山先生や、メガネの竹田先生が職住接近しているなど、椎名先生は千葉から、大いなるお世話になった清田教頭は市川の真間からの通いのようにでした。

就職の心配もない自分は今思うと可なり皆の邪魔をしたのかな？

結構遊んでいた気がしてならないが、昭和29年3月卒業。爾来60数年来武蔵屋酒店を継承してきたが今、流通の変革や他業種の参入により業界の荒廃の波に採まれている現況に、三商で学んだ知識や経験では対応しにくい所にきています。因みに、三人の妹(美津・房江・戦後生まれの信子)も本校で学び、上場会社に就職し、現在も良き家庭を持ち健在です。

※ 「歳古りて」

さて、過日地域のコミュニティの会員と深川地区の探訪に30名程で参りました。門仲の牡丹町の記念公園や大横川の桜、商船大の明治丸、警察予備隊の後にスポーツツニッポン社、地下鉄の越中島駅、相生橋、佃島の高層ビル、農林省の食料倉庫群、東雲の日新製糖(石川島への細い橋や造船所までの貨物線、豊洲に(7/11セブンイレブン)の1号店がオープンするなど、深川八幡の惨事。住吉大社の前が高い防潮堤、これじゃ佃の渡りで自転車も乗れた船も出せない学校帰りに良く歌舞伎座まで行ったものだけ。様変わりの越中島、東都の海の門に立ちてーの校歌は1ー5 km先のお台場へ

平成から令和への大きな変わり目。色々な儀式が

執り行われるなか、目出度いのか、喜ばしいのか日本人特有の熱し易さと醒め易さに少しの不安感を持ちながら、この寄稿を認めています。孫3人が大学に在学中、本校も男子と女子が我々の頃と大逆転の様子、世相の変化に驚きますが益々の人材を世界に輩出して下さい。

添付の写真は父が38歳の昭和19年赤紙で召集された時の店頭での出征時の物です。父の隣が小学校3年の自分で、母、祖母等親戚です。勝ってくるぞと勇ましく♪でも21年ダモイ(帰国)もう1枚は自分が三商2年の時、セミ版で撮った屋上時計台のスナップです。



「佐倉義民伝」 **涙、涙
— 善良な村人を守るために命をささげた宗五郎 —

第22期 荻野弘康

* はじめに

令和元年5月12日に国立劇場にて前進座のメンバーにより上演された「佐倉義民伝」を満席の座席で観劇することが出来ました。

承応年間(1652—1655) 下総国佐倉領(千葉県内) 389ヶ村は数年つづきの凶作・天候不

順等による、のため農作物が激減し、村人は日々の生活に苦しんでいたのであるが、その村々に、藩主堀田上野介はあろうことか、年貢の割り増しを申し渡したのである。

俗に五公五民と伝えられているが、米が十俵とれたら五俵を藩主に納めて残りの五俵を村人が日常生活に使うことが出来るという、農作物の二分の一は藩主方に納めるというのが当時の標準的なルールであったようである。

天候不順のために六儀、七俵しかとれないのに五俵以上の年貢を納めるよう申し渡したのである。

村民は苦しい生活に追い込まれ、数々の家財を売ったり、中には娘を売りに出して生活を凌ぐピンチに追い込まれたのである。村々の百姓総代は国表(国もと・佐倉)の役人に新規年貢の赦免を願い出たが、取り上げられなかったという。

藩主は幕閣の老中職にあつて江戸にいたので「かくなるうえはお殿さま直々に」と、公津村の名主、木内宗五郎(芳三郎)らは村の人々共に江戸にのぼり、堀田家下屋敷の門前に集まつて江戸家老(岩淵典蔵・竜之介)に嘆願したが「お年貢の上納は天下の大法」「強訴は重罪」とはねつけられた。

*** 残虐な処刑が行われた**

宗五郎は堀田上野介と不仲の老中久世大和守に駕籠訴(駕籠を待ち受けて訴状を差し出すこと)に挑むが、訴えは無視された。残る思案は將軍(四代将軍家綱)への直訴となるが、直訴は天下の御法度、死罪となるのである。

宗五郎は妻子を巻き込みたくないで、妻 おさんに去り状(離縁状)を渡したが、おさんはたとえ奈落(地獄)へ落ちても離れたくないと夫の膝にすがつたのである。

おさんの確固たる思いを聞いた宗五郎は、去り状を引き裂き囲炉裏の火で燃やしてしまふ。秋たけなわの紅葉の盛り、上野寛永寺に將軍家綱お成りの日、大勢の大名將軍の行列へ(佐倉領389ヶ村の百姓たちの困窮...)と、直訴状を差し出す宗五郎の声が響き渡ったのである。



直訴は取り上げられたものの、宗五郎夫妻は磔(はりつけ)子供たちは打ち首と、重罪が課せられてしまふのである。

**** 租税法律主義の原点を忘れるな**

現行憲法では(国民は法律の定めるところにより納税の義務を負う。30条)と規定されており、権力者が勝手に国民に税を課することは禁止されている。税法本法だけでは規定しきれないので、政令、省令、通達(法令の解釈であり、概ね妥当ではあるが、納税者を拘束するものではない)等があり多くの税務調査が行われている。

申告納税制度は、納税者は性善説であるが申告内容には、単純なミスから、作弄的な税逃れもあるが、中には税務当局の税法の解釈に相違するものもあり、納税者からの異議申し立て(国税不服審判所に對する不服申立、税務訴訟)があり、納税者の主張

が認められ課税庁の決定が取り消される案件も多々生じている。わかりやすい案件では、競馬の馬券をパソコン管理で買入れしていた納税者の課税にさいし、当たり馬券を課税対象として、ハズレ馬券を控除しなかった事例である。

この課税に異議ありとして、税理士、弁護士等が訴訟を提起したところ、裁判所判決としてハズレ馬券は当たり馬券の合計から控除すべきであるとの結論に達したのである。

正義の味方、庶民の味方宗五郎氏ファミリーも、現在は罪刑法定主義の基ではあり得ない残虐な事件である。

先人の多くの機性の下に築かれた、主権在民の民主国家の原点を忘れてはならないのである。

三商会計人会副会長
中央大学会計人会会長

都内を走ったトロリーバス

第21期 高野 昇

●黒部アルペンルートを旅した方は必ず乗ったと思われるトロリーバス・・・空中に張られた架線(これをトロリー線と言う)から電気をとりモーターを駆動してレール不要の路上を走る乗り物で、見た目は見慣れたバスだが法令では「無軌条電車」として鉄道分野に分類されている。その黒部アルペントのみに現存している「無軌条電車」のトロリーバスだったが、2019年4月以降は電気充電式モーターバスに変更され「無軌条電車」は消えた。単なるバスとなった。そんなトロリーバスが昭和30年を挟んで都内を走りだした。その誕生の背景は、戦後

膨張する人口と交通増で新たな交通アクセスが必要になってきたこと。都電の拡張には膨大な建設費がかかることが難点。そこでトロリーの導入が浮上した。トロリーは電車やバスに比べて①維持費が安い②速度が速い③振動・雑音が少ない④乗り心地が良い⑤排気ガスを出さないなどの利点が多く、施設工事期間も短くて良いことばかり。当時のデータによると1キロ当りの維持費は電車が10円、バスが60円、トロリーは15円とあり輸入ガソリンに頼るバスのキロ単価が高いのは納得。排気ガスをださない見識は今も通じるEco対策だった。

●そしてまず上野公園前(台東区)〜亀戸駅前(江



東区)〜今井橋(江戸川区)が、昭和27年(1952)5月に開通、工事に入ったのが確か3か月ほど前で、

私が三商2年生になる前後だったと思う。私は生まれ育ちが亀戸で、地元は東京初のトロリーバスが十三間通り(明治通り)を走ることで大騒ぎであった。私の父は千葉の銚子近くに住む田舎のおばあちゃんをその開通の賑わいを見せたくて呼び寄せていた。母はそれに合わせてか、それともおばあちゃんへの来訪歓迎の為か、『チラシの混ぜご飯』を作っていた。トロリーに初乗りしたい人の列、見物の人並、写真を撮る人(当時はカメラの殆どが二眼レフだった)こんな賑わいは地元の祭礼の本祭り以外ありえない光景だった。その後亀戸4丁目から明治通りを真っすぐ行く池袋路線も開通し、亀戸駅前はトロリーバスの初期の中心となっていた。

●この開通と同時に、江戸川区内に走っていた都電26番系統の東小松川〜今井間が廃線となった。この路線はまるつきり単独路線であった。車輛も使い古された旧型を用い、まったくのローカル色そのもので、都心に出る為に、この今井や一の江、瑞江地区に住む人達は国鉄新小岩駅に出たくても南北に結ぶバス路線も数少なく、この26番都電で西荒川を目指すのが手っ取り早いし料金も安かったはず。地元の住民にとっては都心のアクセスの復興ぶりとして、焼け残った木製の車輛等が一部用いられており、少し屈辱的な路線だったかもしれないと個人的には思っていた。あの時代にも拘わらず時代遅れを子供心に感じていた。都電26番系統(西荒川〜日比谷)は川幅の広い荒川放水路(今は「荒川」と正式呼称されている)に架かる小松川橋には軌道が敷かれておらず、やむを得ず乗客は小松川橋を徒歩か連絡バス?で荒川を渡っていたはずで、トロリーに乗れば難なく橋も通過でき、利用者にとって願いが叶った画期的な開通だった。亀戸9丁目の三叉路(今も現

存)から亀戸駅前までは都電25系統と並走し、途中の水神森からは29番38番も交えての賑やかな千葉街道(国道14号)だった。都電とトロリーの架線が道路上を網の目の様に張り巡らされ、支える電柱も増え、その電柱が垂直でないもの、道路側に少しのめり込んでいたり、歩道側に傾いていたりでは考えられぬ風景であった。この開通で26番系統の都電は廃線となりトロリーに乗れば乗り換える事も無く国電の亀戸に出られることになった。

●三商へ通学するには使えない経路であり、数日後の日曜日に亀戸から上野公園前まで初の試乗をし



た。料金は全線15円だったかな。ルーフに2本のポールを張り、前を行く車や自転車などを避けるかの様に右に左に丸ハンドルを切る運転士さん、殆どの乗

客が初乗りのせい、前方運転席周辺から運転動作を見ようと大混雑であった。亀戸〜太平町3〜押上（業平）言問橋を渡り、浅草2〜中入谷、桜木〜根津〜上野公園で終点、多分このコースだったと思うがこの歳になると70年近く前の記憶が定かでない。この終点はうなぎ屋の伊豆榮の前あたりだったのだろうか。入谷に入ったらもう終点かと思いきや上野公園をぐるりと周り、一時間強の初乗りだった。まだ高層建物もなくほとんどが木造家屋の時代、押上あたりから浅草の松屋が見えた記憶もあり、行きかう車も小さなスクーターやダットサン、一本ポールの都電など、今思うとこの令和の時代にも通じる「下町巡り」にピッタリな路線であることに気づいた。トローリーバスが自動車ではなく電車であるなど想像もつかない画期的な交通機関で、今後益々発展していくものと確信していた三商2年生の頃の出来事である。

●山手線に沿うように次々と路線が増えていたが、明治通りを走る亀戸〜池袋の系統にはとんでもない光景が見られた。墨田区を通る明治通りには途中に私鉄電車の踏切があり東武亀戸線・京成押上線・東武伊勢崎線の各踏切（現在は東武亀戸線以外は高架化）がおよそ1、7キロの間に3か所も在った。私鉄の高架線とトローリーの高架線が交差する度に車掌さんが下車して後ろに回りポールのロープを引き込み下ろし、そしてトローリーはディーゼルエンジンを起動して踏切を渡り、再び車掌さんはポールを上げる。雨の日も雪の日もこの手間がかかる車掌さんの苦勞には脱帽ものだった。雪の時はチエーンがアースの関係で使えないので別の手段で最徐行になったとか。トローリーの停車所と一般バスの停留所がほぼ同じの為、乗り間違えのトラブルなど初めての交通

機関に乗客が戸惑ったのはたしか。昭和30年後半あたりから車も増え始め、速度が速い筈だったトローリーの存在が道路渋滞の元凶などと言われ始めた。昭和42年あたりから徐々に路線も短縮、廃線、ついに昭和43年9月30日亀戸〜上野路線を最後に全てが廃線となった。この日は初めて上野駅前から亀戸へ向かい「サヨナラ乗車」をした。すでに乗車料金は30円になっていたと思うがその時の乗車券？をしばらく保存していた記憶もあつたが行方不明。トローリー開通と同時に廃線となった26番の都電、16年間の短い時間にも拘わらず下町に親しまれたトローリーバス、今は地下鉄が都営、東京メトロと縦横無尽に走りはしているが路上では目に触れず、地下に潜る長い通路は高齢者にとつてはきつい。銀座線のように、深さの浅い地下鉄にはあまり抵抗は無くても、全てがエスカレーターとは言えず今の地下鉄はちよつと苦手。あの頃の日常的に目に触れていたトローリーバスや都電はどこに居ても眺められた当たり前の風景であった。ゆつくりと確実に進んでいた復興昭和時代に生きられたのは少し幸せであったか。

70歳からのボランティア

第26期 深瀬剛男

2011年3月11日未曾有の大震災発生、その3か月後、池袋からの夜行バスで岩手県宮古駅頭に降り立った。これが私の人生初のボランティア活動の始まりでした。

団体は受け入れても準備態勢が整わず、やつと個人活動を受け入れた一番目が宮古市。宿舎手配が先決とばかりに5軒目の電話で「素泊まり」ホテル確保現地ボランティアセンターに向かうと、100人程が

集結しており、登録を済ませ、係員の指示に従い地元の送迎車両で現場に向かった。宮古市では10日間「側溝の泥だし」ばかりに従事したものの、「一輪車」通称ネコ（狭い場所に入り込めるところから）の操作も下素人ゆえ、何度も横転させ、遂にはもんじゃ焼きヘラを使う「側溝ふたの溝の泥かきだし」を命じられ、ついたあだ名が「ヘラ部長」。

その後、被害が比較的軽微の宮古市から釜石市に移動したが、ホテル探しが難航「ボイラー故障で風呂なし素泊まり六千円」が見つかりホット一息、市内半分浸水した釜石の惨状は言葉にできない状況で、ホテルの窓から港方向を見ると、2〜3キロ四方、真っ暗闇の世界で、国道の信号機一基だけが不思議と正常に作動していた。1週間後ボイラー修理完了で、風呂は使えたが「料金千円アップ」この間自衛隊設営の「テント風呂」を無料で使えていただけに辛い（1日千円は昼夜2回のほゞ食費に該当）テント風呂は10分ごとに湯温を確認する律義さ、入浴剤も日々変わり匂いは温泉気分が快適なり。

釜石では「側溝下口出し」に始まり、店舗・住宅内のごみ処理、建物清掃、家財什物の移動など作業全般にも慣れたが、最も怖い仕事は「冷蔵庫の廃棄作業」。腐敗した食品が飛び散る危険があり、一旦衣服に付着すると匂いが抜けず帰路のスパーのレジ係にも多々迷惑を掛けた。2階のタンスも汚水が侵入して衣類が腐敗し、一旦空き地に「三日間放置」した後でなければ廃棄できぬほど。三週間して帰宅後も「現地」が気になり、1年目は三回（各回3週（4週）釜石を訪れた。

2年目からは知人のいる「福島県南相馬市」と「釜石」で夫々2回活動したが原発に近く「夜間滞在禁止」の小高地区では、野放し状態の庭木の手入れの要請

(雑草除去) がほぼ100%、真夏の炎天下では10分もすれば汗だくになり 1日500m¹×8本の水の補給を必要とした。在庫調整で「1日2〜3本の配給」ではとても足りず、自費でカバーしたものの「ボランティアはすべて自己責任」と原則論を言われるといささか腹も立つところ。

宮城県南三陸町危機管理室職員「遠藤未希さん(24歳)」が、防災無線で避難を呼びかけつつも、尊い命を失ったことは今でも忘れられない光景です。私の父は昭和20年3月9〜10日の「東京大空襲」で焼死しました。当時5歳の自分には父の顔すら記憶にないが、「君のお父さんは、自警団の副分団長として、最後の最後まで高所から避難指示をしつつ、逃げ遅れたんだよ」と亡母の友人から聞かされており、2つの場面が重複して頭に浮かんだことが震災ボランティアの道を示してくれたのです。

3年目からは引越(仮設から他の仮設住宅、仮設(自宅)が作業の中心となり、「ハードからソフト」に変更する中で、仮設入居者のための何か?を考へ、仮設住宅巡回形式の「高齢者向け健康けん玉教室」を思いついた。けん玉は健康効果があるとの風潮もあつて、直ぐに釜石市個人ボランティア集団の「チーム023(おにーさん)」と連携して開始した。けん玉経験の少ない土地柄でしたが、想定以上に関心が高く90歳を超える高齢者が子供同様に喜々と遊ぶ姿に自信を得た。各仮設住宅内の集会所・集会室での定着を目的に、それぞれの教室に3〜5個のけん玉を寄贈し、興味のある人には、仕入れ原価より低いワンコイン価格でお譲りしてきた。釜石市15カ所、隣接の大槌町12カ所の仮設住宅を複数巡回して初期の目標は、ほぼ達成したが復興の進展に伴い被災者住宅も「プレハブ」から「中高層

集合住宅」へと移行したことで、新たな問題が発生した。屋根・外壁・床板が鉄板1枚の劣悪な「プレハブ」でも長年住み慣れ、殆どが同一被災地域から入居者が集まった仲間意識、良好な人間関係の環境から、新たな集合住宅は各地から参集のため、人間関係が希薄化してきた。「隣室のせき払いやTVの音」の世界から、隣人の声も聴こえぬ世界に変化したことから、孤独○が増加した。昨年から新たなコミュニティづくりにはけん玉を役立てるべく、「集合住宅向けけん玉教室」を展開した。

2017年には熊本県内20カ所(熊本の場合は仮設住宅)33回のけん玉教室を開催した。益城町10カ所(15回)、熊本市区内2カ所、宇城市ほか1市で(10カ所、18回)と5カ所の窓口と個別折衝を繰り返し、日程調整は可成り困難でした。運転免許証を71歳で返納済みのため、移動はすべて公共交通機関であり、昼の2時間は食事とバス移動に費やした。釜石市内はチーム023(前出)のスタッフの送迎でしたが、隣接の大槌町は路線・町民バス利用の自力移動のため、夕方終了後路線バスに乗るため山道を2時間歩いたこともあった。

現地ではユニークなボランティアと遭遇し、即戦力の技術も多く見ることができ7年前からの思い出が次々と浮かんでくる。

①鹿児島県屋久島5人組は、鹿児島に上陸後運転を交代しながら宮古へ。

②大阪市在住のA君は、ヒッチハイク40台で宮古へ。

③大分市のE氏は、家財処理を依頼された家主の確認のもと、「なんでも鑑定団」にでも出品するのか、次々とマイカー(内部改造のバン)に積み込み、満杯になると一旦大分へ戻り、半年間日雇いで得た資金で再び釜石へ。

④釜石では「新日鉄釜石」の職を投げ出し、今まで千日以上ボランティア活動に専念しているK氏がいる。ラグビーチーム「釜石シーウェイブス」フォワードの体験を持ち、力仕事ばかりか梱包・輸送、作業全般を知る猛者でありながら、毎日4〜5人分の「おにぎり」を用意し、時には無償で宿を提供している。何でも好きなことを言える仲間もあり、こんな人見たことないという人物。大分E氏が肺がんとの情報を得た途端、翌日飛行機で大分まで見舞いに行くほどの繊細な人柄。(私もその1か月後、急逝の連絡を受け、翌日埼玉から日帰りで墓参りに行った)

2018年2月の活動までで通算320日を超えた「貴方は金があるからボランティアに行けるんだ」と他人から良く言われる。確かに費用が掛かる(宿泊費、交通費、食事代、手土産代)現地の人は言う「旅行でも、地元の産物を買おうも〓お金が地元に戻元することが一番有難い」私も常日頃、周囲の方にお願ひするのは、コメ、酒、野菜、肉、魚、同じ買うなら被災地の物品を買いたいよう・・・と。

2年目から「三陸特産高級海藻焼まつも」を仕入れ、小・中・高の同期会で販売したり会社関係の親睦会でもワンコイン販売を続けている。(年間40袋以上仕入れ原価600円)けん玉仕入れ先の浅草蔵前の「玩具問屋」も、焼まつも仕入れ先の岩手県山田町の「水産加工業者」も私の行動を理解していただき、価格面で大なる支援を頂戴している。

「けん玉教室」もあと2〜3年と予想していたが、「平成30年7月豪雨」が発生し、新たな課題を与えてくれました。55歳から興味を持った海外旅行(通算38回)も、震災後は一度のみ。もう、ちよつとだけ長生きして被災者支援を続ける覚悟です。以上

お詫ごとお返事

今号58号を制作するにあたり、会報編集部のみすで、ご投稿いただきました第16期高野清様の原稿を未掲載のまま、印刷製本を完了させて頂いてしまいました。高野様ご本人にお詫び申し上げるとともに、ホームページ版では追加編集をいたしまして掲載いたしましたこと、三商同窓生の皆様にもご理解いただきましたこと、存じます。

今後、複数人数による掲載内容のチェックを一層強化いたしました。皆様の貴重なご投稿、ご報告を漏らさず、正確に多くの同窓生の皆様にお伝えできよう、同窓会広報委員会一同、努力いたします。

都立第三商業高等学校同窓会

会 長 第31期 三浦康二
 広報委員長 第22期 篠崎 清
 編集責任者 第49期 岩瀬茂幸

◆三商第16期は、第二次世界大戦まったただ中に入学し、戦後の復興期に卒業された期です。(実業学校五年制)現在の中学一年生から高校二年生までの多感な時期を、戦争が激化した昭和18年から、大空襲で一面焼け野原となった東京が少しづつ立ちあがっていく三年間のリアルな生活様式、そして戦前、戦中と敗戦後のまるで違う価値観に戸惑った思いを、ホームページの燦商閑話でもおなじみ第21期高野野野さんのお兄さん、清さんが書き上げてくださいました。

途中ちりばめた当時の写真と共に、本当の戦争と暮らし、等身大の一少年の想いを是非ご一読ください。

私の都立三商時代の思い

第16期 高野 清

私は、昭和18年4月に東京府立第三商業学校(現在の東京都立第三商業高等学校)へ入学、昭和23年3月に卒業した第16期同窓生です。

後輩たちが経験しなかった昔の事象を、老化して衰えた頭脳から記憶を絞り出して過去を思い出して記述しました。失念した部分や勘違いした部分もあるかもしれませんが。その点はご容赦ください。

1 当時の時代は、きなくさい戦争の臭がいつもただよい、常時ならぬ非常時の時代でした。国民は海外の状況からいつさいの情報の入手を、国から強制的に遮断され、政府の偏った情報のみを聞かされていました。現在の北朝鮮の国民と同じとすれば分かり易いでしょう。これを破って外国放送を聴取しようものなら、非国民として非難され、果てはスパイの容疑で刑事処分を科されました。当時市販のラジオは国内放送しか受信できず、海外放送は受信不可能でしたが、なかには海外放送受信可能なラジオを自分で作ったり市販のラジオを改造したりして保有していた人がいたようです。ラジオと新聞以外のメディアは一切ない時代です。一般の国民の入手情報はラジオと新聞だけでした。あとはひそかに伝わってくる噂です。

2 私が三商へ入学した当時は、日米戦争真っ最中で、すでに敗色濃厚だったにもかかわらず、軍部大本営本部の公表では、いつも米国の航空母艦何隻を轟沈したとか戦艦何隻を撃沈したとかの放送ばかり

で、嘘っぱちの情報流し、我が方の損害は軽微なりとして、国民をだまし続けていました。しかし実状はその反対でした。当時のマスコミも軍部のこのような情報を、何の疑いもなく平然と流していました。これが私の三商入学時の時代背景です。

3 当時の学校教育は軍部や文部省の指示により、通常の教科の他に、教練という授業がありました。



三商教練の様子の一

第15期小嶋皓一様ご提供

第15期小嶋皓一様ご提供



5 当時の学校教育は、今になって思うとパワハラが蔓延していました。暴力教師がいて、自己の感情が抑えきれずに、生徒に往復ビンタをする場面を何度か目にしました。往復ビンタの勢いで転倒した友人の表情が、今でも私の頭に残っています。幸い怪我はありませんでした。卒業後も枯葉その教師を憎んでいました。その暴力教師は明治維新時代の有名な末裔です。その教師から制裁のため木銃で胸を突かれて、肋骨骨折になった上級生がいたとの噂がありました。

6 教練以外の授業については、割合に充実していました。私の記憶では、歴史の矢島先生、数学の畠先生（東京物理学校卒の秀才、中途で軍部に招集されてお別れした）、英語の石田先生その他の先生方がいました。その他の先生方の名前は失念しました。

7 入学してまもなく連合艦隊の山本五十六司令官の国葬があり、私たちは四谷見附付近で国葬の隊列をお迎えする行事に参加しました。大砲の上に棺が乗せられて、目の前を通り過ぎて行きましたが、敵地に墜落した飛行機の中の司令長官の遺体を、どうやって収容したのか疑問でしたが、メディアははっきりと説明しませんでした。

8 当時の遠足は今と違って「剛健遠足」と称して、徒歩が原則でした。例えば明治神宮の神宮橋に集合し、調布市の仙川まで甲州街道を徒歩で行きました。リュックサックに決められた荷重の砂を入れての徒歩なので、かなり疲労しました。帰途は電車でしたが、上級生は往復徒歩でした。帰りは重い砂を



途中で捨てました。今でも仙川周辺を通ると当時を思い出します。渋谷から二子玉川まで徒歩での遠足もありました。三軒茶屋を経由しますが、路面電車の玉電が我々を追い越してゆくのが羨ましかったです。玉電は砂塵を立てて通過するので、我々は埃だらけでした。路面が未舗装だったのかもしれない。

9 軍部が若い男性をどしどし召集するので、働き手が不足し国内の兵器の生産が必要に大きく不足するので、昭和19年秋に学生生徒の動員がありました。当時軍部への召集が猶予されていた大学生は猶予が解除され、即時軍部への入隊が行われました。その時の式典が、神宮外苑の陸上競技場で行われま

学校には現役の軍人や元軍人だった軍関係の職員が数名いて、週に数時間の教練のときには彼らが教師として私らを教育しました。将来の軍人の育成を12歳から始めたのです。木銃を担いで行進や雨天のときには教室内で「軍人に賜りたる勅諭」の講義があり、来週までにこの勅諭を全部暗記するようにという宿題を出されたときには、暗然としたことを強く記憶しています。「我が国の軍隊は世世天皇の統率したもうところにある。」で始まる明治天皇が発した勅諭で、二千六百字以上の長文を一週間で丸暗記なんて不可能というのが、私らの共通の悩みでした。

4 三商への通学は、都電でした。私は江東区亀戸から都電で錦糸町まで乗り、そこから大手町行き都電に乗って、木場一丁目下車あとは徒歩です。同時に降車した私らは、直ちに二列縦隊を組んで上級生が指揮を執って校門まで行きます。途中で先生に出会うと、指揮者が「歩調執れ」と号令し更に「かしら右」と号令して先生に敬意を表しました。軍隊式です。

したが、今でもその時の映像（降雨中の大学生の行進）がテレビで見られますので、ご存知の方も多いでしょう。大学生の召集動員と同時に、大学生以外の生徒に対しては、勤労動員が施行されました。我ら少年も例外とされず、勤労動員令が施行されました。昭和19年秋に、三商の生徒たちは方々の工場へ勤労奉仕に動員され、勉強時間は大きく削減されました。一カ月に1回だけ登校しますが、残りの日々は工場へ行って働くわけです。私の場合は、深川の海辺町にあった町工場でした。従業員が数十名の中小企業の工場で、船舶用の器具を製作していました。私の仕事は、船舶用の木製の滑車（荷物の積み下ろし用）作りで、ボール盤で縦穴を開けるというものでしたが、作業に失敗して滑車を「お釈迦」にしてしまうことも再三あったり、作業服の袖口をボール盤の刃に巻き込まれてあわやという事態もあつたりして、冷や汗をかいたこともありました。月給は30円でした。全額を母親に渡して貯金していました。後記の東京大空襲で貯金通帳を焼失し、一銭も使わずに終わりました。

10 サイパン島の玉砕（当時の文言です、全滅という意味）後は、戦局は日々に悪化し国民の間でも厭戦気味の雰囲気が出てきました。ラジオでサイパン島玉砕の放送を聞いたとき、何の実状も知らない私でも暗澹たる気分になりました。今後の戦争の行く末はどうなるのか心配でした。弟たち小学生は半強制的に山形の上市市へ学童疎開して別居してました。親子兄弟離れ離れです。両親と妹（5歳）及び私は疎開しないで江東区に残りました。米軍はサイパン島占領後の戦略は、当時の米軍の超弩級の爆撃機4発機のボーイングB29をサイパン島に駐屯



させて、日本本土空襲を狙っていました。その後サイパン島から発進したボーイングB29が昼間から単機で東京の超上空を通過して偵察していました。おそらく超上空から写真撮影でもしていたのでしよう。飛行機雲を長々と引いて機体をキラキラさせながら、飛行している姿は美しくもありました。高射砲の砲弾はその敵機に届かず、無駄弾ばかりでした。ボーイングB29は1万メートルの成層圏を飛行可能なのに、日本の迎撃戦闘機はそんな上空は飛行不能でした。しかし果敢な飛行兵がB29に体当たりして、東京湾内に撃墜させたことがありました。日比谷公園でこのB29の破損した尾翼部分を展示したので、見に行きましたが、尾翼部分だけでしたが、その大きさに驚きました。日本の「飛燕」という戦闘

機も並んで展示されていましたが、大小の差に驚嘆しました。米国の強さを実感させられました。毎日定期便のように昼間にB29単機の来訪がありました。彼らは富士山を目指して本土上空に接近し、そこから東へ方向転換して東京近辺の上空で偵察して東の海上へ飛行して、サイパンの基地へ戻るのでした。

11 最初の夜間飛行のB29が飛来したのは、昭和19年11月のお西さまの夜でした。私の父親は浅草のお西さまへ参拝に行っていました。空襲警報が発令されると、飛ぶようにして帰宅してきました。帰宅を急ぐ者の混雑で電車が超満員で大変だったのとことです。初めての夜間空襲で都民はどうして良いやら判断に困ったことでしょう。この時の空襲では大きな被害はなかったようです。単機か複数機か不明ですが、米軍は夜間空襲の練習でもしたのかな。

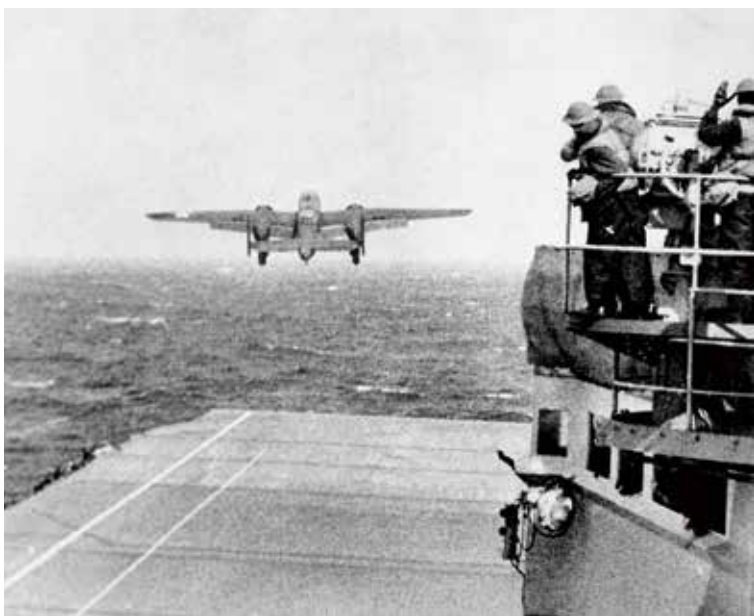
12 その後も単機か若干の複数機が昼夜を問わず飛行してきて、その度に空襲警報が発令されました。先ず午後10時ごろ空襲があり、次に翌日の午前2時ごろ空襲があり、その次は未明の早朝にまたまた空襲です。都民は一晚に3度も起こされて睡眠不足に悩まされておりました。空襲の度にお粗末な自家製の防空壕に入っていました。狭くて湿っぽい壕内には落ち着きません。私は空襲になると防空壕には入らず、いつも表通りに出て敵機はいずこか空を見上げていました。月のない夜の晴天時の星空の美しさにすっかり魅了されました。星明りという言葉の意味が良く分かりました。月がなくても星だけの明るさで周辺が手に取るように見えるのに驚きませんでした。制空権を無くした日本の軍部はB29には手が出ません。米軍にとってはハイキングにでも行くよう

な気楽な旅行だったのではないのでしょうか。

13 こんな非常時でも、我々の勤労奉仕は続けられました。警戒警報くらいなら工場へ通勤してしましました。警報解除まで待つてまた仕事に戻るといいう繰り返して、仕事が終わりました。一日に何度も繰り返すので能率が上がりません。生産量は極度に落ちました。これも米軍の狙いだったような気がします。まさに神経戦でした。神経戦に負けるなという標語を見ました。月に1度の三商への登校日はろくな授業はなく、まったく勉学から離れてしまいました。学生ではなく工員になってしまいました。

14 学徒動員令の発令以前には、雨天でない限り、毎日校庭で朝礼が行われ、上半身裸で素足でした。裸体操のあとは長々と続く教職員の訓話が多く、中途で体調を崩してうずくまる生徒が頻発しました。先生の中にも倒れこむ場面がありました。軍部から派遣された将校が、戦意高揚のために来演し生徒たちの心を掴んでいました。その成果が出て海軍の予科練修生（飛行機乗員、いわゆる予科練）に大勢の生徒が応募しました。当時の少国民は私を含めて全部が軍国少年でした。彼らは誇らしげに朝礼で挨拶して、あとに続けと叱咤激励していました。私もその影響を受け、3年後には陸海軍の経理学校を受験してみようと決めました。

15 日米開戦後の最初の空襲は、昭和17年4月のボーイングB25による本土空襲でした。日本近海に接近した米航空母艦ホーネットから発進した双発機



B25の16機は東京の他に横浜、横須賀、川崎、名古屋、四日市、神戸等へ飛行して爆弾を投下し、中国大陸奥地へ退避しました。都区内でも被爆して犠牲者が出ました。住宅の破壊もありました。完全に虚を突かれた軍部は大慌てでしたが、敵機を撃墜することができませんでした。かなり低空を飛行したらしく操縦者の顔が見えたという証言もあります。その指揮者はドーリットルといいましたが、米国ではドーリットル空襲と称して米国のマスコミが喧伝して、米国民の士気を高めたようです。江東区あたりでは敵機の爆音も聴こえず、日本の戦闘機が敵機の退避後に飛び回っているだけでした。

16 昭和20年の新年が明けましたが、食料不足からおせち料理やお雑煮もできず、寂しい正月となりました。

した。その頃から航空母艦から発進したグラマン艦上戦闘機が本土の空を乱舞して、禿鷹のように地上の人や満員の鉄道列車や建物その他を襲い始めました。機銃掃射です。会場で操業中の漁船も襲われ多くの犠牲者を出しました。軍と民間人の区別なく襲撃を受けました。ゼロ戦もグラマンの餌食になる始末です。当時のゼロ戦はすでに時代遅れの遺物になってしまいました。米国はゼロ戦を完全な姿のまま捕獲し、徹底的に研究して開発したのが、グラマン艦上戦闘機でした。強力なエンジンを着けて速度を増し、防弾のために厚い鉄板をパイロット席に着装してパイロットの犠牲を防いだのです。日米の生命に関する価値観の相違です。日本の軍部は「生命は鴻毛より軽し」との考えから、戦略を練っていません。兵士の生命の価値は一銭五厘と俗に言われていました。たった一枚のはがきです。一銭五厘あればはがきでいくらかでも兵士を召集できたからです。

17 入学当初は都電利用でしたが、中途から自転車通学にしました。通学中に空襲警報が発令されると、道端に作られた防空壕に飛び込んで退避し警報解除まで待ちます。都電が混んで乗車できないことがしばしばあったので自転車通学に変更しました。夜間はB29の空襲があり、昼間はグラマンによる空襲があり、都民は常時緊張した生活を強いられていた。田舎へ転居する人が増えて、都民人口は減りました。鉄道駅周辺では建物の強制疎開がありました。空襲被害を防止するために建てこんでいる建物を破壊して空き地を作ったのです。木造建物は人力によって破壊していましたが、戦車を使用した処もあつたそうです。あんなに賑わった駅前商店街が

あつという間もなく、空き地だらけの空間になりました。

18 昭和20年3月9日の夜11時ごろに空襲警報が解除されたので、やれやれこれで寝ることができると解放感を味わっていると、今でも聴いたことのない激しい大爆音が耳に飛び込んできました。びっくりして表通りで空を見上げると手に届くような超低空を巨大なB29が飛行して北方向へ飛行して行きました。東京湾から北上してきたのです。そのあとから次々とB29が飛来してきました。三百機のB29のじゅうたん爆撃です。すでにその時は墨田区方面の空は火炎で真っ赤に染まっていました。焼夷弾による火災です。台風のような強い北風に煽られて火災は延焼し続け、亀戸も安全ではなくなりました。明治通りは避難民で阿鼻叫喚のさなかです。父親は警防団員だったので屯所に詰めていましたが、家族に急いで避難するよう警告するために飛んできました。が、すぐに屯所へ戻って行きました。家族が別々になつてしまいました。母親と疎開先から帰京した次男と妹と私は、一団となつてリヤカーに布団その他の荷物を積んで亀戸駅まで避難しましたが、駅構内は避難民で満杯の状況で入る隙間がありません。駅構内はコンクリート造りのため火災から逃れられると考えた人々です。仕方なく折角持ってきた荷物を、避難の邪魔になるので放棄して亀戸町内をあちこち徘徊して回り、午前3時頃に一丁目の工場跡地の原っぱに辿り着きました。そこには大勢の避難民がいました。みんな不安な表情でひそひそ話をしていました。そこで偶然にも父親と出会いました。全く幸運でした。亀戸駅構内に避難した人たちはほとんどが焼死したそうです。生死の境は紙一重です。



向こう三軒両隣のうち、両隣のうち片方の人は生死不明、向こう三軒の十数名の人たちについては全員が生死不明でした。幸い私たちの家族は助かりました。焼け跡の惨状は筆舌に尽くし難く、描写するに堪えません。江戸川区小岩に親戚がいたので、そこを頼って徒歩で行きました。交通機関も損害を受け不通でした。避難民の私ら家族5人の受け入れを、親戚の人たちは気さくに快諾されたのを、今でも思い出します。

19 勤労働員の工場も消失していたので、動員先が深川枝川町にある工場（企業名は失念）に変わりました。コンクリートミキサ機を製造していましたが、私の仕事は旋盤で金属板に穴を開ける作業でし

た。操作が難しいので工員が主として操作し、私は雑役みたいな作業をしました。工員の多くは地方出身で義務教育を終えたばかりの青年たちでしたが、我々と年齢が近かったので、しばしば工員たちと我々は、小さなことで争っていました。彼らは地方出身で学歴がないのに、我々は大都会出身でしかも義務教育以上の教育を受けているとの認識から劣等感を抱えていたようです。

20 昭和20年の新入生は、都立造船工業学校でした。三商は新入生なしです。商業学校は戦争に必要なしとされ、理系の学校に変わったのです。同じ校舎に理系と文系の生徒が混在したのです。文系の三商から理系の造船工業へ横滑りした同期生もいました。私は三商に残りました。

21 戦局我に利あらず、敗戦濃厚になっていました。昭和20年8月15日に敗戦となりました。日本中の都会のほとんどが空襲で焼け野原になりました。大都會では、京都市だけが無傷で残りました。日中戦争開始以来敗戦日まで犠牲者が三百万人を越えました。敗戦後「一億総懺悔」という言葉が、当時の東久邇宮内閣から叫ばれ、敗戦の責任は日本人全体にあり皆で反省しようとの趣旨でしたが、政治家や軍部の責任を国民に押し付けるものとの反論が多くあり、これが要因の一つとなって東久邇宮内閣は総辞職に追い込まれました。戦前戦中の価値観が敗戦により大反転して、白が黒になり、黒だったものが白になるといふ変化に、私たちは大変戸惑いました。天皇は現人神（あらひとがみ）にあらず人間であるという勅諭が、昭和21年元旦に公表されるといふこともありました。天皇自ら発信の人間宣言です。も

ちろん占領軍総司令官マッカーサーの後ろ盾あつてのことでしょう。



22 敗戦後は造船工業が廃校になり、以前の三商が復活しました。勤労動員は消滅し、全員が学校に戻ってきましたが、空襲による犠牲者もあり、また地方へ疎開して転校した者もいたので、生徒数が減った

ようです。授業は再開され充実してきましたが、勤労動員による勉学不足はいかんともし難く、食料不足もあつてなかなか思うようにはゆきませんでした。放課後のクラブ活動が活発になり、私は杉原先生が指導する珠算部へ入部し、東京都珠算競技大会で入賞したこともありました。スポーツクラブでは野球の人気が高く、部員があまりに多くて、道具が足りず練習に差し支える事態もあつたようです。学校近くの東京商船大学校舎は米軍の将校たちの宿舎となつていましたが、その将校が来校してきて、生徒と一緒に野球を楽しんだことがありました。その将校はローズ大尉といい、近いうちに退役

して帰国し、大学へ入つて法律を勉強することでした。将来の日本は君たち若い人の双肩にかつていてとの、別れの挨拶に感動しました。懐かしい思い出です。

23 忘れられない記憶として、食料不足を補うための食料買出しがあります。戦後の米穀の割当てが配給される量は、健康に生きてゆくには絶対的に不足していました。国民はいつも空腹に悩まされていました。隔週の日曜日には父親の実家がある千葉県へ父親と一緒に食料の買出しに行きました。千葉県は薩摩芋の産地で有名でした。2人でリュック満杯で帰宅するのですが、途中で警察の取締りに遭い、僅かの量以外は没収されました。当時の食料管理法違反ということでした。1日ばかりでせつかく苦労して購入してきたのに、没収されてしまい、切ない思いでした。食料買出しを商売にしている者が主たる目的のようでしたが、商売人でない一般の人も例外なく取締りの対象としたことが多々ありました。

24 三商卒業後の進路については、更にもう1年学校に残つて卒業すれば、新政高校卒業になるので、その進路を選ぶ者と、経済的な事情ですぐ就職する者とに二分されます。当時の三商卒業生の就職先は日銀や大手銀行や旧財閥系の企業が多くありました。しかし旧財閥系の企業は、総司令部の命令により旧財閥系の商号の使用が許されず、規模も中小並みに細断されてしまったので、企業の良否の判断が困難でした。戦時中の旧財閥系の会社は軍部に協力したとの理由で、そうなったのです。私が入社した新光レイヨンはその後三菱レイヨンとなり、現在は三菱ケミカルです。三菱銀行は千代田銀行という商

号でした。

25 昭和23年3月に三商を卒業して三商生活は終わりました。三商の内外で過ごした5年間の歴史は、私の生涯にとつて忘れられないものとなりました。戦中戦後時代を体験し、この貴重な時代を生き抜いてきたからです。平成時代が終わり令和時代に入ったので、私たち世代は昭和平成令和の三時代を体験することになり、感慨が多くて胸がしれないものがあります。私の同期生たちの大半はすでに鬼籍に入っています。私ら有志が作った三商矢島会の十数名のうち、今残っているのはたった2名です。寂しいことこの上もありません。最近の超70年間は日本に関してはまったく平和な時代でした。日本史上こんな永い平和が続いたのは初めてではないでしょうか。私が生まれた昭和5年から同20年までの15年間は、常時戦争の連続でした。昭和7年の満州事変及び日本海軍将校らによる反乱事件(当時の首相暗殺事件)、同11年の2・26事件、同12年の日中戦争、同14年のヨーロッパ戦争(ドイツのヒトラーによるポーランド侵攻)、同16年の日米戦争で、事変や戦争の連続でした。そんな時代を根絶したいです。今後も平和な時代が続いて欲しいと切に念じます。

同窓会員各位のご健勝を願つてやみません。拙い乱文を読んでいただき、有難うございました。

(追記)「都立三商第16期生の記録」という本を、三商同窓会事務局(江東区牡丹1-12-8)や公立図書館等では是非ご覧ください。同期生各位の詳細な体験が記述されています。

母校の今

三 商 近 況



都立第三商業教諭
第60期 木藤則行

初めて「同窓会報」に寄稿します。乱文お許しいただけますと幸いです。

母校第三商業に教員として着任して5年目になります。着任3年目に創立90周年記念式典を挙行し、教員としてさらにステップアップできたかと思えます。また、母校発展に微力ながら貢献できたこと、本當にうれしく思います。

今回の寄稿にあたり、母校第三商業の近況をご報告いたします。

1. 卒業生累計

創立90周年記念誌99ページに「卒業生数の推移」を掲載しております。発刊後2年が経ち、86期生が卒業しました。最新版の「卒業生の推移」が表1となります。総数27,567名、男性が13,506名、女性が14,061名です。卒業生総数が28,000名になるのも近いです。

2. 進路先について

記念誌79ページに「各年度進路先一覧」を掲載しております。86期生までの進路先を追加したのが表2となります。近年の卒業生の進路は進学傾向にあり、

3分の1が就職、3分の1が大学・短期大学、3分の1が専門学校という傾向になっています。今後も進学傾向が続くとみられます。

3. 「商業科」から「ビジネス科」へ

2019年度の第1学年(89期)と第2学年(88期)は「ビジネス科」、第3学年(87期)は「商業科」です。平成29年に東京都教育委員会から発出された「商業教育検討委員会報告書と今後の商業教育の方向性について」により、平成30年度入学生よりカリキュラムが改正され、「ビジネス科」が発足しました。これは、東京都内全商業高校が「商業科」から「ビジネス科」になりました。

1年生の「ビジネス基礎」では、ビジネスに関する基礎的な知識を学ぶとともに、東京に関する産業やビジネスがどのようになっていくかを併せて学習します。

2年生の「ビジネスアイデア」では、新たなビジネスモデルやビジネスの考え方、発想(アイデア)を創造できるようなテーマを設定し、その解決策を学ぶためのフィールドワーク中心の授業です。

授業の様子ですが、机に座り先生の話聞き板書をノートに写し覚えるといった授業ではなく、自ら学び、発言して意見を交換し、対話したりインタビュをしたりすることにより深く学ぶ方法へと変わっています。

4. 部活動の活性化

第三商業には運動部では14の部活動と3つの同好会、文化部では12の部活動と2つの同好会、合わせて26の部活動と5つの同好会があります。部活動参加率は86%であり、5人に4人は部活動に所属して

いる状況です。

令和元年6月15日(土)に第35回全国高等学校簿記コンクール東京大会が東京都立芝商業高等学校で行われ、**第三商業が団体の部優勝**をし、7月21日(日)関西学院大学で行われる全国大会に出場することとなりました。簿記コンクール東京大会で、第三商業が優勝したのは初めてであり、生徒が大変頑張った成果であると思います。(過去には第8回平成4年度で団体の部第2位が最高位です)

今後とも母校へのご支援・ご教授をどうぞよろしくお願いたします。

簿記大会優勝の記念写真



三商現在の部活動

昔から続く部、無くなってしまった部、同好会として復活した部
全く新しい部など、様々な部活動が繰り広げられています。

運動部

- 硬式テニス部
- 硬式野球部
- サッカー部
- 柔道部
- 水泳部
- ソフトテニス部
- ダンス部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- バトントワリング部
- バドミントン部
- 女子バレーボール部
- 陸上競技部
- ソフトボール部
- 卓球同好会
- ラクロス同好会
- 女子サッカー同好会



ソフトテニス部



水泳部



女子バスケットボール部



硬式野球部



サッカー部



陸上部



男子バスケットボール部



バトントワリング部



ダンス部



硬式テニス部



バドミントン部



ソフトボール部



ラクロス同好会



女子サッカー同好会



女子バレーボール部



家庭科部



演劇部



軽音楽部



茶道部



プラスバンド部



簿記部

文化部

- 演劇部
- 家庭科部
- 華道部
- 軽音楽部
- 茶道部
- 写真部
- 情報処理部
- 美術部
- プラスバンド部
- 簿記部
- 書道部
- 珠算電卓部
- 商業研究同好会
- 放送同好会

各年度進路先一覧(平成21年度～平成30年度)

平成21年度

	卒業生		斡旋就職		公務員		自営・縁故		大学		短期大学		専門学校		就職活動中		その他・家事手伝い	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計	29	133	18	71	0	1	0	9	5	10	1	3	4	23	0	0	1	16
	162		89		1		9		15		4		27		0		17	

平成22年度

	卒業生		斡旋就職		公務員		自営・縁故		大学		短期大学		専門学校		就職活動中		その他・家事手伝い	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計	46	111	21	55	0	2	2	5	7	7	0	6	8	17	1	1	7	18
	157		76		2		7		14		6		25		2		25	

平成23年度

	卒業生		斡旋就職		公務員		自営・縁故		大学		短期大学		専門学校		就職活動中		その他・家事手伝い	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計	49	97	24	35	0	0	0	4	5	6	0	4	11	26	2	3	7	19
	146		59		0		4		11		4		37		5		26	

平成24年度

	卒業生		斡旋就職		公務員		自営・縁故		大学		短期大学		専門学校		就職活動中		その他・家事手伝い	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計	38	143	16	74	0	2	0	4	6	12	0	4	10	25	0	3	6	19
	181		90		2		4		18		4		35		3		25	

平成25年度

	卒業生		斡旋就職		公務員		自営・縁故		大学		短期大学		専門学校等		就職活動中		その他・家事手伝い	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計	52	130	23	55	1	0	1	3	7	4	0	12	14	36	0	1	6	19
	182		78		1		4		11		12		50		1		25	

平成26年度

	卒業生		斡旋就職		公務員		自営・縁故		大学		短期大学		専門学校等		就職活動中		その他・家事手伝い	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計	45	146	19	83	0	0	4	5	2	6	1	7	18	31	0	0	1	14
	191		102		0		9		8		8		49		0		15	

平成27年度

	卒業生		斡旋就職		公務員		自営・縁故		大学		短期大学		専門学校等		就職活動中		その他・家事手伝い	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計	59	138	19	64	0	0	0	2	20	7	0	6	16	45	0	0	4	14
	197		83		0		2		27		6		61		0		18	

平成28年度

	卒業生		斡旋就職		公務員		自営・縁故		大学		短期大学		専門学校等		就職活動中		その他・家事手伝い	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計	53	149	23	81	0	0	1	0	16	16	0	8	12	33	0	1	1	10
	202		104		0		1		32		8		45		1		11	

平成29年度

	卒業生		斡旋就職		公務員		自営・縁故		大学		短期大学		専門学校等		就職活動中		その他・家事手伝い	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計	48	146	18	71	0	0	2	4	11	16	0	2	13	39	0	0	4	14
	194		89		0		6		27		2		52		0		18	

平成30年度

	卒業生		斡旋就職		公務員		自営・縁故		大学		短期大学		専門学校等		就職活動中		その他・家事手伝い	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計	67	134	27	59	0	0	2	2	20	14	0	3	15	49	0	0	3	7
	201		86		0		4		34		3		64		0		10	

卒業生数の推移

期数	卒業年	男	女	計
1	昭和8年 3月	178		178
2	昭和9年 3月	214		214
3	昭和10年 3月	191		191
4	昭和11年 3月	247		247
5	昭和12年 3月	247		247
6	昭和13年 3月	225		225
7	昭和14年 3月	223		223
8	昭和15年 3月	236		236
9	昭和16年 3月	220		220
10	昭和16年 12月	300		300
11	昭和17年 12月	391		391
12	昭和18年 12月	309		309
13 (5年卒)	昭和20年 3月	339		339
14 (4年卒)	昭和20年 3月	373		373
15 (4年卒)	昭和21年 3月	319		319
(5年卒)	昭和22年 3月			
16 (旧5年卒)	昭和23年 3月	246		246
(高1期)	昭和24年 3月			
17 (旧5年卒)	昭和24年 3月	102		102
(高2期)	昭和25年 3月			
18 (高3期)	昭和26年 3月	161		161
19 (高4期)	昭和27年 3月	351	4	355
20 (高5期)	昭和28年 3月	464	34	498
21 (高6期)	昭和29年 3月	394	33	427
22 (高7期)	昭和30年 3月	365	58	423
23 (高8期)	昭和31年 3月	426	56	482
24 (高9期)	昭和32年 3月	368	94	462
25 (高10期)	昭和33年 3月	389	82	471
26 (高11期)	昭和34年 3月	388	84	472
27 (高12期)	昭和35年 3月	363	100	463
28 (高13期)	昭和36年 3月	356	120	476
29 (高14期)	昭和37年 3月	317	143	460
30 (高15期)	昭和38年 3月	295	157	452
31 (高16期)	昭和39年 3月	285	162	447
32 (高17期)	昭和40年 3月	260	188	448
33 (高18期)	昭和41年 3月	292	201	493
34 (高19期)	昭和42年 3月	241	220	461
35 (高20期)	昭和43年 3月	242	221	463
36 (高21期)	昭和44年 3月	190	264	454
37 (高22期)	昭和45年 3月	157	288	445
38 (高23期)	昭和46年 3月	103	335	438
39 (高24期)	昭和47年 3月	90	338	428
40 (高25期)	昭和48年 3月	88	338	426
41 (高26期)	昭和49年 3月	84	331	415

期数	卒業年	男	女	計
42 (高27期)	昭和50年 3月	64	331	395
43 (高28期)	昭和51年 3月	68	323	391
44 (高29期)	昭和52年 3月	77	327	404
45 (高30期)	昭和53年 3月	75	320	395
46 (高31期)	昭和54年 3月	96	304	400
47 (高32期)	昭和55年 3月	59	342	401
48 (高33期)	昭和56年 3月	56	332	388
49 (高34期)	昭和57年 3月	67	318	385
50 (高35期)	昭和58年 3月	52	344	396
51 (高36期)	昭和59年 3月	50	326	376
52 (高37期)	昭和60年 3月	71	312	383
53 (高38期)	昭和61年 3月	74	373	447
54 (高39期)	昭和62年 3月	53	359	412
55 (高40期)	昭和63年 3月	67	343	410
56 (高41期)	平成元年 3月	73	366	439
57 (高42期)	平成2年 3月	62	329	391
58 (高43期)	平成3年 3月	57	327	384
59 (高44期)	平成4年 3月	52	338	390
60 (高45期)	平成5年 3月	62	297	359
61 (高46期)	平成6年 3月	63	286	349
62 (高47期)	平成7年 3月	54	237	291
63 (高48期)	平成8年 3月	53	230	283
64 (高49期)	平成9年 3月	52	180	232
65 (高50期)	平成10年 3月	63	161	224
66 (高51期)	平成11年 3月	37	160	197
67 (高52期)	平成12年 3月	40	152	192
68 (高53期)	平成13年 3月	42	140	182
69 (高54期)	平成14年 3月	32	151	183
70 (高55期)	平成15年 3月	40	129	169
71 (高56期)	平成16年 3月	34	130	164
72 (高57期)	平成17年 3月	46	111	157
73 (高58期)	平成18年 3月	51	119	170
74 (高59期)	平成19年 3月	54	124	178
75 (高60期)	平成20年 3月	42	140	182
76 (高61期)	平成21年 3月	53	122	175
77 (高62期)	平成22年 3月	29	133	162
78 (高63期)	平成23年 3月	46	111	157
79 (高64期)	平成24年 3月	49	97	146
80 (高65期)	平成25年 3月	38	143	181
81 (高66期)	平成26年 3月	52	130	182
82 (高67期)	平成27年 3月	45	146	191
83 (高68期)	平成28年 3月	59	138	197
84 (高69期)	平成29年 3月	53	149	202
85 (高70期)	平成30年 3月	48	146	194
86 (高71期)	平成31年 3月	67	134	201
	合計	13,506	14,061	27,567

【備考】

本表の作成に当たっては、(1)卒業証書授与控簿、(2)同窓会名簿、(3)卒業生名簿、(4)同窓会マップ、(5)卒業生台帳 を参考にした。

公益財団法人東京三商会

理事長 杉本光男

日頃より同窓生をはじめ、関係者の皆様からご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成から令和に替わりいろいろな面で良くなることを期待したいものです。

当財団もお陰様でなんとか順調に運営しておりますが、この厳しい経済環境、ゼロ金利が続くなか奨学金の財源を確保するのがなかなか難しくなっております。そこで以前からも行っていることですが、多方面に渡りご寄付のお願いをしておりますので、本年も宜しくお願い申し上げます。

当財団では長年行ってきました奨学金給付事業ですが、今年は応募要項にある、応募資格のハードルを下げたこともあって、多数の応募者が見込まれており、これから選考にかかります。以前は三商の生徒のみが対象でしたが、公益財団になってからは対象者が都立の商業科目を有する高等学校の生徒と広がりました。よって三商の生徒以外にもたくさんのお応募があり選考にはより厳密に厳選しなければと気持ちで行ってまいります。

将来、社会に貢献できる優秀な人材の育成に寄与できるよう頑張っておりますので、これからもご支援ご協力のほどよろしくお願い致します。

原稿の送付先やお問い合わせなど

会報の原稿「会合報告・エッセイ等」は同窓会事務局までお送りください。

● 郵送の場合

〒135-0046

東京都江東区牡丹1丁目12番8号 三商会館4階

● メール送信の場合

info@tc-saa.jp

● 電話・FAXは左下の奥付をご覧ください。

事務局には一名の常駐職員がおります。時間は平日の10時半から17時となっております。

夏季、冬季休暇及び平日も不定期でお休みをいただく場合がございます。外出中の場合もありますので、ご来訪の場合は、あらかじめお電話で、来訪日時をお打合せください。

メールにて原稿をデータ送信する際は、「マイクロソフトワード・エクセル」「テキストドキュメント」形式でお願いいたします。メール本文に直接書き込まれても結構です。

画像データは、殆どの形式が使用できます。但し、ワードやエクセルに貼り付けますと、画質が落ちる場合がございますので、直接画像データをメールに添付願います。

データ容量が大きすぎてメール送信がエラーになる場合、「データ便」や「オンラインストレージ」などの大容量ファイル送信サービスをご利用ください。

編集後記

同窓会報を編集している時期は、丁度梅雨の頃となります。昔の梅雨はしとしとと長雨が続くイメージでしたが、最近は全く降らないカラ梅雨かなと思うと、突然豪雨になってみたり、それが短時間であったという間に止んでみたり。ごく狭い地域に降ってみたりと、天気の内り方も随分変わったように感じます。

三商も開校から90年を過ぎ、様変わりをしてきました。校舎も完全建て替えと、大規模リニューアル。二度の変革を遂げて今があります。学校生活も商業科からビジネス科へ、一般企業とタッグを組んでより実践的なカリキュラムを学ぶこともあるそうです。

少子化と専門学科校離れで、都立の商業高校も統合や廃校となった高校が増えました。しかし我が母校は、時代に即した変革を続け、100周年やその先に向かって長く続きそうな様子です。

同窓会も、母校が都立商業高校の雄としてあり続けるよう、これからも支援していきたいと思っております。

三商同窓会報第五十八号

令和元年7月1日発行

発行者

都立第三商業高等学校同窓会

発行責任者

都立第三商業高等学校同窓会 広報委員会

編集者

東京都江東区牡丹1の12の8 三商会館4階

都立第三商業高等学校同窓会事務局

杉本 光男

電話03(3643)3392

ファクシミリ03(3643)3396

印刷所

オフィス岩瀬

広報委員会 会報グループ 第49期 岩瀬茂幸

中小企業、納税者の権利拡充に努めます。

税理士法人 **荻野会計事務所**

| 経営革新等支援機関 |
| 経済産業省 |

代表社員 **荻野弘康** (第二十二期)

東京都荒川区南千住五丁目二五-14
TEL: 03-3803-1232
FAX: 03-3803-1238
E-mail: zei_ogi@d3.dion.ne.jp

～同級生からのコメント～

昭和29年10月第1回全国高等学校簿記コンクール
に出場団体戦優勝都立三商(荻野・西脇・中川)
個人の部優勝(荻野弘康)

有限会社 みのる不動産

都知事(13)21090号
公益社団法人東京都宅地建物取引業協会会員

代表取締役 **三川 廣志**
(第34期)

■ 亀戸店 東京都江東区亀戸7丁目11番12号 京葉道路面
TEL(3684)5851(代) FAX(3684)5850
E-mail: mk@e-minoru.com

■ 本店 東京都江東区北砂7丁目4番3号 環状四号面
TEL(3644)7573(代) FAX(3640)2543

公認 不動産コンサルティングマスター

西 邨 昭 一 (第31期)

一般社団法人千葉県宅地建物取引業協会
公益社団法人全国宅地建物取引業保証協会千葉本部
専任相談員

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-17-3 (千葉県不動産会館)
TEL: 043-241-6671 FAX: 043-245-0866

(自宅)
〒279-0042 浦安市東野2-6-1
TEL: 047-353-0932 FAX: 047-353-4533

(第21期) **平林 慶雄**

有限会社 **平林油店**

灯油・軽油・潤滑油・配達いたします
油の事ならご相談ください。

本店・自宅 (03)3644-4487
江東区南砂4-19-13

南砂 S S (03)3644-6161
江東区南砂3-4-5

宇喜田 S S (03)3680-2541
江戸川区宇喜田1223



三商49期

同期会一同

1963年4月～1964年3月生

1982年3月卒

広告 募集中

同窓会報に広告を載せてみませんか?
会社・お店のアピール、同期会等に
来期会報発行にぜひ、ご協賛ください。
お問い合わせは、同窓会事務局まで。
(広告費は会報発行費補助、同窓生への発送費用に活用されています)

総合印刷プランナー **Office Print&Bind's Solution** **iwase**

印刷の事なら何でもご相談ください
企画・デザイン⇒印刷・製本⇒納品・発送代行

オフィス岩瀬

第49期岩瀬茂幸
TEL/FAX: 03(3877)9520
E-mail: s_iwase@jcom.home.co.jp

協賛広告費(税込) お支払いの振込料はご負担願います。

	面積	サイズ	金額
A	1 ページ	190×260	¥30,000
B	1/2 ページ	127.5×190	¥15,000
C	1/4 ページ	92.5×127.5	¥10,000
D	1/8 ページ	61.5×92.5	¥5,000
E	1/16 ページ	44.2×61.5	¥3,000

※ご請求は見本誌送付と共に振込のご案内を同封いたします。

リサイクルショップ
てるてるぼうず

代表 大石 傑 一郎
(23期珠算部)

史舟本店 〒131-0032 東京都墨田区東向島2-14-1
メゾン大石1F ☎3616-2434(代)
自宅 〒111-0051 東京都台東区蔵前4-28-5 蔵前大石ビル4F

とばへ屋
みっます

住所/130-0022 東京都墨田区江東橋 4-20-4
TEL/03-3631-5850
定休日：土曜及び祝日です
河西紀道 第25期
(墨田区食品衛生協会会長)

(墨田区銘品名店会)

手打蕎麦

細く長く 大きく長く どちらも自然食



おしゃれエプロンメーカー
有限会社 篠崎

取締役会長 篠崎 清 (第22期)

〒272-0021 市川市八幡4-17-33
TEL047-334-5027 Fax047-334-5432

Suginotokouji
株式会社 杉本好二商店

代表取締役 杉本 光 男
第26期 (卓球部)

〒130-0002 東京都墨田区業平1-17-5
TEL 03-3623-2185
FAX 03-3623-1859

砂利・砂・セメント・碎石
生コンクリート・アスファルト 販売店

創業明治四〇年
下町の味を伝えて一世紀
うなぎ

高木 利夫
(第三十三期)
元史学部

〒110-0011
東京都墨田区石原三・三〇・九
TEL...03-3622-5592
FAX...03-3622-5592
E-mail:nagiyu@icm.home.ne.jp

番号印刷専門
スドウナンバー

31期 須藤 義勝

〒104-0043 東京都中央区湊2-3-3
Tel.03-3551-9078 Fax.03-3553-8486

関西風お好み焼き
とんとん亭

33期 坂口保夫

森下交差点角 すき屋並び
定休日月曜日 営業時間17時~23時
電話 03-3635-4823
江東区森下2-18-1



夜屋 03(3833)4529
十一時~十四時半
十七時~二十二時半

文京区湯島3-8-1

SAIKOU
菜肴
ますだ

とんかつ★串揚げ
かつ進

神田鎌倉橋店 03-3256-2984
外神田店 03-3532-2981

26期 増田進一郎
31期 増田トシ子

中華・洋食

南光軒

三商会館近く
江東区牡丹 1-12-12 (35期 谷 泰一)
☎ 03 (3641) 7668

小型生コン製造販売
日本工業規格表示認定工場

小野建材工業株式会社

代表取締役 小野 雄久
(第18期)

事務所
東京都江東区平井七丁目一番十九号
電話 03(3647)4111(代) 19番
FAX 03(3647)4112
東京都江東区平井七丁目七番一六番
電話 03(3647)9100 四〇番
自宅
東京都江東区平井七丁目七番一六番
電話 03(3647)9100 四〇番

旨い 安い 鳥 義
下関ふぐ地鶏ちゃんこ


本館 墨田区石原 3-17-3-101
電話 03-3626-4466

30期

別館 墨田区石原 3-17-3
電話 03-3622-8343
FAX 03-3622-8349

氏家 賢
柔道部

<http://e-sumaida.gr.jp/toriyosi/>

 細田木材工業株式会社

顧問
細田安治 (19期)

〒136-0082
東京都江東区新木場 2-5-3
☎03-3521-8701
fax03-3521-8708
e-mail: yasuji@woody-art-hosoda.co.jp
<http://www.woody-art-hosoda.co.jp/>



合法木材供給
事業者認定
[輸入協-037]



ISO9001

素材の良さと
伝統の味を
守り続ける老舗

創業
文久三年



割烹 とうだ

東京都中央区日本橋室町
1-12-3
電話 03-3241-1025
(日・祝日休み)

橋本 敬(20期)

<http://www.toyoda.tokyo>

 株式会社 **エイケン**

相談役 今 泉 清

☎273-0861
本社 千葉県船橋市米ヶ崎町 729 番地
TEL 047(422)0211(代)
FAX 047(422)0229
携帯 090(3228)6477

31期 レスリング部

割箸・テーブルウェアで105年



株式会社 **赤田本店**
AKADA COMPANY, LTD.

代表取締役 赤田安司
(第34期)

住所 〒130-0004 東京都墨田区本所3-23-10
電話 03-3625-4184 FAX 03-3625-9399
メール akada-honten@mx5.ttcn.ne.jp



協和クリーニング

宮内庁御用達の店
株式会社 協和商会

平成30年度PTA副会長 嶋 善美

営業時間 月～金 午前8:00 ～ 午後6:00
土 午前8:00 ～ 午後4:00
定休日 日曜・祝日

〒130-0002 東京都墨田区業平4-4-13
TEL : 03-3624-3351
FAX : 03-3624-3353

TORIKAPPO



代表取締役 鈴木 裕 俊
(35期)

有限会社 鳥割烹 大金
〒103-0007 中央区日本橋浜町2-10-6 ☎03-3666-6929(代)

三商同窓会 総務委員

22期	篠崎 清	26期	岩瀬 和子
26期	古田 勝一	28期	小林 慎典
28期	吉沢 靖子	28期	若月 健司
28期	鷺 嘉雄	29期	土方 敏之
30期	藤倉 久男	34期	三川 廣志
48期	渡邊 秀明	49期	星名 恵子
55期	初山 優	60期	木藤 則行

円滑な同窓会運営のためのお手伝いをしています



柏 俊太郎 (第35期)

〒136-0071
東京都江東区亀戸 6-23-10
カーサカッシーノ 1F
TEL 03-3682-0033

強力な経営参謀ソフト

パソコン・ソフトの開発と販売 Excel版

常にリスクを考え戦略を立てる先見経営・先行管理ソフト

【資金繰り】・【先見経営】・【財務会計】

経営動向・決算予測・経営分析・中期5か年計画・資金管理

北海道から沖縄まで中小企業、及び全国の会計事務所に納品しています。
ビックサイトに出店経験あり。「お役立ち会計事務所全国100選」に掲載。

会計・経営・相続 相続無料相談(予約制)

田村博税理士事務所 税理士 田村 博 18期
税理士 田村 嘉正

104-0041 東京都中央区新富 2-2-11 須永ビル 中央区役所前
TEL 03-3552-3638 (代) <http://www.tamcon.co.jp>

江戸蕎麦手打處 滋味、旨酒

創業 安政元年
御蔵前

あさだ



営業時間	平日	11:30 ~ 14:00
		17:30 ~ 21:00
	土曜日	11:30 ~ 14:00
		17:30 ~ 20:00
定休日	日・祭日・第1、第3土曜日	

2階椅子席(10名席・20名席)にて、御会食にご利用ください

江戸通り、蔵前と浅草橋の中間

〒111-0053 台東区浅草橋2-29-11

電話・FAXとも (3851) 5412

<http://www.asada-soba.co.jp>

(第28期) 粕谷安孝



生活空間応援します

不動産のことならご相談ください。
住宅・事業用など
トータルサポート致します。



【当社開発事例 イメージパース】
新築分譲住宅 全17棟の街並み
～家族の絆を育む～story
ここから生まれる17の物語
シリーズ「Creation」 East village

(公社)東京都宅地建物取引業協会会員 東京都知事免許(13)第26577号

大雄開発株式会社

〒136-0072 江東区大島1-29-6 アプローチ西大島101
代表取締役会長 松岡雄治(第26期)

TEL: 5628-1511 FAX: 3636-2292

売買情報<http://www.daiyukk.co.jp> 賃貸情報<http://www.daiyukk.com>

『新着物件情報』・『オープンハウス情報』など掲載中です!!

物件情報満載HP



思い出に残る1日を演出いたします

- ・懇親会・結婚式・謝恩会・同窓会
- ・七五三のお祝い・研修会・展示会
- ・宿泊・出張宴会・ご法要 etc



三商 第22期
皆川 泰藏

 船橋グランドホテル

JR船橋駅北口より徒歩3分/駐車場80台完備

〒273-0005 千葉県船橋市本町7丁目11番地1号
TEL 047-425-1121 (代表) FAX 047-424-9488
<http://www.funa-gh.co.jp/> E-mail : info@funa-gh.co.jp

あなたに届けたい心と体の健・幸・美

DMJえがお生活®

日々、健やかで元気に暮らせることって、何よりも幸せ。ご家族が笑顔で結ばれます。DMJ えがお生活は安心と安全を第一に、高品質な健康サプリメントを提供しています。

元気をつなぐ。

笑顔をつなぐ。

DMJ企業グループは健康食品事業、通信教育事業、通信販売事業など多岐に渡り、各種商材をテレビ、新聞、雑誌、カタログ、インターネット等の様々な媒体を通して、お客様の豊かな生活を提案しています。

DMJ
DIRECT MARKETING JAPAN CO.,LTD.

企業グループ

- 株式会社 ディーエムジェイ
- 株式会社 全日本通教
- 株式会社 全日本通販

取締役会長 西方勇雄 【第29期】

【販売実施名称】

- DMJえがお生活
- 日本カルチャー協会
- 日本進学指導センター
- 日本資格教育センター
- 日本能力科学アカデミー
- 日本ヘルスアカデミー
- 日本芸術アカデミー
- 一般財団法人日本健保事務協会

DMJ市ヶ谷本社ビル 〒102-8617 東京都千代田区九段南3-5-9
TEL.03-3288-1311 (代表)

夢をかたちに・・・



中外徽章株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-2

TEL:03-3294-3431 FAX:03-3294-3436

<http://www.chugaikisyo.co.jp>

相談役 古田 勝一 (第26期)



令和

都の空は明けたり、今...!!

祝

都立三商 第26期

卒業60周年&同期会30回記念

「生涯青春で有り続けたい」との願いから、第26期は毎年同期会を開催しております。

第26期 同期会会長 古田 勝一